



足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
令和 5 年度 助言反映結果
(令和 4 年度事業実施分)

令 和 6 年 2 月

地域のちから推進部

令和５年度 文化芸術部会における重点施策への助言総括

1 対象施策

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 施策 3-1 文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する | …5 事業 |
| 施策 4-1 足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する | …5 事業 |
| 施策 4-2 連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る | …4 事業 |

2 令和５年度 文化芸術部会からの助言総括と区の方考え方

本部会では、上記施策の「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマに掲げ検討してきた。これらの論点を中心に報告する。このような具体的な検討と同時に、部会では常に「足立区民の文化芸術に対する誇りとは何か？」という根本的な問いかけがあった。結論が出ているわけではないが、施策の検討の背景として、今後この問いかけを継続していきたい。そこから「足立区民が誇りに思う、足立区独自の文化芸術のスタイル」が生まれてくるのではないかと考えている。

（１）助言総括１ 文化資源の次世代への継承

足立区独自の歴史・文化の調査が進み、その成果が順調に公開されている。特別展「琳派の花園」「あだちの拓本」「足立の学童疎開」では、述べ 11,293 人の来場者があり、「足立区の文化財」のサイトでも、「足立史談」、「文化財デジタルマップ」などで詳しく調査結果が紹介されている。郷土博物館のサイトも「おうちミュージアム」「ビビビ美アダチ」「バーチャルツアー」など非常に充実している。

区文化財の保存と利活用に関して、計画的に保護する仕組み作りに期待したい。特に、伝統行事の映像化や、古民家のリノベーションなどの好事例を、メディアなどを積極的に使って区外へも紹介してほしい。子ども達が取り組みやすい、外国人が参加しやすい「文化の継承」についても考える必要がある。

ア 貴重な文化資源を活用した、新しいテーマ性のある企画展の開催を期待する。

イ 足立の歴史を知るイベントの計画的な開催（例えば「外国人旅行者を対象とした企画」のような、新しい視点から発想された企画）を期待する。

ウ 小学校・地域学習センターへのアウトリーチの充実を期待する。

《助言総括１に対する区の方考え方》

気軽にアクセスできる「文化財デジタルマップ」や四コマ漫画「ビビビ美アダチ」をさらにPRし、区にゆかりのある文化財に関心を寄せるきっかけづくりを進める。

また、「旧板垣家」の日本料理店へのリノベーションのような、有形・無形文化財の保護と利活用の好事例を周知しつつ、令和６年度中を目途に文化財の保存と利活用に関する行動計画を策定する。

- ア** 郷土博物館では文化遺産調査の結果を特別展「琳派の花園 あだち」につなげてきた。令和7年度の千住宿開宿400年に向けて、関連した区由来の貴重な文化財などをテーマに企画展を行う。
- イ** 「徳川家ゆかりの地を辿る」バスツアーや、区登録文化財の「横山家」、伊興の「東岳寺」へ郷土博物館の出張展示などを行ってきた。今後も「千住街歩き」や「駅からハイキング」など、足立の歴史を知るイベントを開催していく。
- ウ** 小学校での古代の出土品などに触れる授業の実施や、地域学習センターでの「あだちの琳派」などの講座を開催した。今後も、小中学校や地域学習センターのアウトリーチを実施することで、次世代を担う子どもたちに区の歴史文化に触れる機会を提供する。

(2) 助言総括2 連携や交流の創出によるプラットフォームの形成

「仲町の家」や「コンサート in ミュージアム」は、足立区独自の文化施設として機能している。藝大連携事業のアウトリーチ・コンサート「六町ミュージアム・フローラ」など、質の高いコンサートの継続を評価したい。「コンサート in ミュージアム」は区内5施設を使ったユニークな企画だが、それぞれの施設が年間一回の企画なので、例えば「1日の内に5施設同時開催（各施設毎に異なるスタイルの音楽プログラムを短時間で数回）」区民が普段関心の無い音楽ジャンルを体験する機会になるような企画があっても良いのではないか。アートプロデュースから発想された、このような新しい企画を期待する。

6大学による連携の取り組みとして、「夢かなえよう。with あだちの6大学」などが実施されており、区内には17,000人の大学生が在籍している。今の足立区には、大学を活用することで文化芸術を発展させる大きな可能性があるのではないか。

新しい企画に継続性を持たせるために、活動支援やスポンサーを探す仕組みも必要である。これまでのように足立区が施策として提供するだけでなく、将来的には、足立区から生まれ継続して発信されるような、新しい文化芸術への支援が期待される。

プラットフォームの形成は手段であって目的ではない。原点に戻って、何を指すべきかの検討が必要である。例えば、「連携」と「交流」の成果を分けて考えることで、よりプラットフォームの役割が明確になるのではないか。

ア 大学を活用した連携事業の発展に期待する。

イ 文化芸術交流会（足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団の音楽3団体）の開催によって、足立区に新たな音楽文化が生まれることを期待する。

《助言総括2に対する区の考え方》

プラットフォームについては、既存の連携事業や交流会の現状把握を行い、そ

の成果を踏まえたうえで、新たなプラットフォームの必要性について検討する。

ア 東京藝術大学連携事業では、六町ミュージアム・フローラで「美術×音楽」を相互に楽しめる場としてコンサートのアウトリーチを実施した。今後とも、大学を活用した連携事業を検討する。

イ 文化芸術交流会（足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団の音楽3団体）を含め、音楽団体との意見交換を行うことで、さらなる活動の活性化を目指していく。

（3）助言総括3 情報の集約及び効果的情報発信の強化

アナログとデジタルのような異なる情報の活用は、年齢よりも分野の違いによることが報告されている。情報発信は、分析を元にきめ細かく行われなければならない。また、情報の収集については、用語の内容が発信者と受信者でギャップの無いように共有されているか、確認が必要である。区民の文化芸術のイメージは「琳派の花園」のような企画であると誤認しているのではないか。足立区は、地域学習センターの催し物のような、日常的な文化芸術の提供も数多く行ってきた。区民に、これらも重要な文化芸術であるというアピールが必要である。

ソーシャルプラットフォームは日々進化している。区民が必要とするデジタル情報に到達できるように、区が提供する文化芸術に関する情報発信ページの効果的なデザインについても検討をお願いしたい。

ア 「誇り」「満足度」「文化芸術」などの言葉の解釈には大きな幅があるので、区民へのアンケートでは、定義をより丁寧に説明することが必要である。

イ 文化芸術の推進につながる普及活動では、「関心喚起」や「行動生起」※¹へ繋がる「きっかけ」が重要である。効果的な「きっかけづくり」が期待される。

《助言総括3に対する区の考え方》

今後は、文化芸術のイベントチラシや冊子などのQRコードから、関連イベント情報や映像につなぐなど、区民が必要とする情報に到達できるように、効果的な情報発信ページをデザインしていく。

ア 区民へアンケートを実施する際は、「文化芸術」は「音楽や美術だけでなく映画を楽しむことも含む」などの補足説明をして、イメージが湧きやすい表現に取り組んでいく。

イ 「文化財デジタルマップ」の公開や、郷土博物館の「電子展覧会」と「動画 de あだち」での琳派の紹介など、実際の文化財への興味へつながる「きっかけ」となるような情報発信を実施した。今後とも、区展受賞者のインタビューや文楽の出演者を広報で紹介するなど、人に着目した情報発信により、区民の「行動生起」※¹へ繋げていく。

※¹ 「関心喚起」…興味関心を引き起こすこと。「行動生起」…行動を起こすこと。

文化芸術推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	3	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	3-1	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行う。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	-	37.7%	44.5%		(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	-	-	53.9%	63.6%		

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	31.6%	55.6%		(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	-	-	63.2%	111.2%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	1	0	0	0	5
%	80%	0%	20%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（37.7%→44.5%）、指標②実績値（31.6%→55.6%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、それぞれR3年度を上回った。なお、指標②はR7年度の目標値（50.0%）も上回った。

【要因分析】

ア 郷土博物館では、文化遺産調査の成果を紹介するため、区制90周年を記念した特別展「琳派の花園 あだち」に加えて、協働グループ展「あだちの拓本」「足立の学童疎開」を実施し、延べ11,293人の来場者があり、成果につながったと分析する。

イ 区のホームページでは、まるで実際に博物館へ訪れたかのように、画面上で博物館内を行き来して展示を閲覧できる「電子展覧会」を実施した。年間の閲覧数は7,739回であり、博物館へ来ることが難しい方や気軽に見学をしたい方へ、区の貴重な美術資料を鑑賞する機会を提供した。

ウ このような取り組みを通じて、過去の足立区の高い文化水準や足立区のアート作品の高い文化的な価値が伝わり区民の誇りへとつながったと考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア 「琳派の花園 あだち」では、チラシや区のホームページ、SNSでの紹介に加え、広報では特集を組み「武蔵野美術大学の玉蟲教授と区長の対談」や、「文化遺産調査10年間のあゆみ」などで大々的に周知した。さらに、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌に取り上げられ、足立区ゆかりの貴重な美術品の発見や保存を広く区内外へ伝えた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 郷土博物館はR5年1月からR7年3月まで改修に伴う休館をしており、館内の展示ができないため、電子展覧会を通年で実施し、これまでの文化遺産調査の成果を発信する。

イ 電子展覧会の好事例にならない、区の文化財を紹介する「文化財デジタルマップ」をR5年度に公表する。

ウ 区文化財の保存と利活用に関する行動計画を策定する。

【中長期の取り組み】

ア 文化遺産調査を継続し、保存・継承に努めるとともに、令和7年度の博物館リニューアル以降のように足立区の魅力と文化を紹介していくか検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「リアルとオンラインの融合による新たな可能性の追及を期待」「若い人達が、デジタルから実物に接することで、新たな文化等の創作に発展すること」との助言については、郷土博物館の音声ガイドや電子展覧会での伝統文化鑑賞の体験などにより、リアルとデジタルを活用した事業展開を行った。今後も、それらの成果を文化財や伝統文化に活かしていく。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	4	4	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 区の文化財等を誇りに思う区民の割合が5割を超えたことは評価できる。一方で、文化財等に触れたことのある割合は5割を下回っており、どのように行動に結びつけるかが課題である。 イ 区制90周年「琳派の花園 あだち」は、7,117人の来館者数があり評価できる。 ウ 郷土博物館の「電子展覧会」は、ホームページで展示の臨場感を味わえるものであり、来館できない方がバーチャル体験できたものと推察できる。時間や場所の制限がない電子展覧会の開催は評価できる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 「電子展覧会」に続き「文化財デジタルマップ」を公表することは、区民が手軽に地域の文化を知ることのきっかけとなり評価できる。				
(3) 「評価の反映状況」への評価 ア 郷土博物館の音声ガイドや「電子展覧会」など、リアルとデジタルを活用した事業展開は、多くの区民へ文化財に触れる機会を提供できたため評価できる。それらの成果を活かした今後の事業展開に期待する。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合が20%増加したのは評価できる。 イ 足立区独自の歴史・文化の調査とその成果の企画展が成功し、昨年度に較べて確実に入場者の数値が上がったことは評価できるが、目標値までの取り組みには、さらに創意工夫が必要である。 ウ 「電子展覧会」などの新しい試みは評価できる。サイトとしての閲覧回数には、PRやセミナーなどによる努力でまだ伸びしろがあるのではないかと。				
(2) 「今後の方向性」への助言 ア 「文化財デジタルマップ」や「区文化財の保存と利活用に関する行動計画策定」に期待したい。 イ 区由来の美術品が国際的な美術誌「国華」に掲載されたことは足立区民の誇りである。区独自の文化財への取り組みと展示、郷土博物館のリニューアルなどは、区内だけでなく区外への積極的なPRによって足立区民の誇りに繋がるのではないかと。 ウ 「文化に触れる、鑑賞する」というのは一つの指標なので、その先に何を指すか、区としての具体的な目標が必要である。				
(3) 「評価の反映状況」への助言 ア リアルとデジタルを活用した事業展開が大きく進展していることを評価する。必要とする人に、常に新鮮な情報を提供できるように、進化するSNSプラットフォームへの対応を期待したい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方 [イについて（成果指標①）] 現在施工中の展示改修により、美術・歴史・民俗を融合し、1年を通してより魅力的な展示運営を図る。また、令和7年度の展示内容PRの際にはリニューアル情報をあわせることで効果的に発信する。 [ウについて（成果指標①）] R6年度は美術誌「国華」の刊行にあわせて6月から電子展覧会を公開した。閲覧回数はR5年度の7,739回から約8,500回（R6年1月時点）に増加しており、今後も講座の開催やPRに創意工夫を行うことで周知を図っていく。				
(2) 「今後の方向性」への評価に対する考え方 [アについて（成果指標①②）] 「文化財デジタルマップ」は、公開から6ヶ月間で1万5千件の視聴回数があったことから、今後も実際の文化財へ興味を持つきっかけづくりに取り組んでいく。また、R6年度中を目途に文化財の保存と利活用に関する行動計画を策定する。 [イについて（成果指標②）] R6年度のマンガ「ビビビ美アダチ」の発行を契機に、プレスリリースなどで区外へPRすることで文化遺産の周知に努めていく。 [ウについて（成果指標②）] 「文化に触れる、鑑賞」する区民の割合が増えることで、心豊かにつながると考えている。具体的な目標は新文化芸術推進計画の策定時に再検討する。				
(3) 「評価の反映状況」への評価に対する考え方 [アについて（成果指標①）] 「文化財デジタルマップ」の公開など、リアルへ促すようなデジタルの事業展開が発展した。今後は、伝統芸能のPR動画の作成による展開のほか、チラシや冊子のQRコードの活用など効果的な情報発信ページをデザインしていく。				

文化芸術推進計画 施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-1	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となる。区民が必要な情報を得られるよう調査・検討を続けていくとともに、区内外の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やＩＣＴの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。

また、各学習センターにおいて、複合施設の特徴を活かし、3分野の情報を一体的に分かりやすく提供する。さらに、区内の文化施設やイベントを通して、文化芸術の楽しさをより広く知ってもらう普及活動を行う。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合							
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：満足でない～５：満足である）							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	18.8%	28.6%		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	-	-	23.5%	35.8%		

指標名②	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合【再掲】（施策1-1）							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：そう思わない～５：そう思う）							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	30.3%	-		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	-	-	37.9%	-		

指標名③	情報の集約及び効果的な情報発信							
指標の定義	ホームページに掲載したイベント数の年間アクセス数 「区ホームページ内の文化芸術に関するイベントページが一年間で閲覧された数」							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	47,400回	41,583回	54,151回		(60,000回)
目標値（R7）	60,000回	達成率	-	79.0%	69.3%	90.3%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（18.8%→28.6%）は3計画アンケート未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施し、R3年度を上回った。

指標②実績値 R4年度未実施。再掲（施策1-1）

指標③は、実施した事業がより成果として現れるよう、新たな指標を設定した。

【要因分析】

ア 指標①は、R3年度と比較し9.8ポイント増加したものの、情報発信に満足している割合は3割未満であり、人々の関心を引くことが出来なかった。

イ R4年度に実施した文化芸術イベントについて、区ホームページの「おでかけ・イベント情報」へ掲載することで、日付や場所を選択して検索を可能とした。その結果、文化芸術に関するページの閲覧数は54,151回となった。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア 生涯学習センター及び地域学習センターからのお知らせや役立つ情報を掲載した「ミニコミ紙」を、コロナ禍の影響により町会自治会等に配布した。

イ 「ミニコミ紙」の発行に加え、SNSを活用して各センターの情報を発信し、フォロワー数である9,052名にタイムリーに講座情報等を発信した。また、「ミニコミ紙」等にQRコードを掲載するなど、アクセスしやすいように工夫をしている。

ウ あだち広報において、「仲代達矢インタビュー」や「琳派の花園 あだち」記念対談の特集を組み、「動画 de あだち」では「琳派の花園 あだち」を紹介した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 学習センターの新規利用者層の獲得を図るため、講座情報等をミニコミ紙のほか、Twitter、Facebookに加え、LINEのプッシュ通知を活用し、効果的な情報発信を行っていく。

イ ホームページや、SNS等の情報発信だけでなく、チラシ掲示やデジタルサイネージの活用などを通して、文化に興味がない方も情報に触れる機会が増えるような工夫を行っていく。

【中長期の取り組み】

ア 区政モニターアンケートによって、文化芸術の分野によって情報収集手段の方法が異なることが明らかとなったことから、広報・インターネット・SNSを分野に合わせ使い分けることで情報発信を行う。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

ア 「区の文化芸術推進計画をロゴ、キャラクター、スローガンなどで具体的に周知することが必要である」との助言については、他の周年事業のロゴ使用の状況も踏まえて検討する。

イ 「現在の「指標の定義」では実績値がカウントされないものもある」との助言については、この施策に紐づく事業の達成度が全てAIにもかかわらず、成果指標ではその成果が確認できないため、効果的な情報発信かどうかを確認するべく、文化芸術イベントのホームページ閲覧数を新たな指標に設定した。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	3	4	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア あだち広報の特集記事や動画作成など、効果的な情報発信により、情報発信の満足度は9.8ポイントの増加、ホームページアクセス数も約1万3千回の増加と努力の結果は見受けられるが、区民全体の満足度は3割未満であり今度とも努力が必要である。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 情報発信の方法について、文化芸術の各分野の対象者によって情報収集媒体が異なることを区政モニターアンケートで明らかとしたことは評価できる。今後、この結果を庁内で横展開することで効果的な情報発信につなげてほしい。 イ 今後も、LINEのプッシュ通知など様々な情報発信手段を活用することで、文化芸術への関心喚起につながるよう期待する。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア ホームページアクセス数は一定の成果と言えるので、新たに指標を設定したことは評価できる。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア ミニコミ紙のQRコード掲載やSNSの活用など、さまざま工夫による情報発信の成果は評価できるが、満足度が3割未満であることのギャップの分析が必要。 イ 現代の文化芸術は、生活の中にも大きく広がっている。文化芸術の領域について、区民との共有が必要ではないか。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 情報の提供は、アナログとデジタルによるきめ細かいサービスによって対応がより複雑になっている。アンケートなどによる分析で、ある程度、整理する必要もあるのではないか。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア 文化芸術イベントのHP閲覧数の新たな指標の設定は評価できる。 イ 区の文化芸術推進計画が、ロゴ&キャラクター&スローガンなどによって、より統一した表現で実現することを期待したい。				

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）
(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方 [アイについて（成果指標①②）] 「文化芸術」の区民の捉え方が様々なことが満足度の低い要因と考える。今後は、アンケート実施の際に、「文化芸術」は「音楽や美術だけでなく映画を楽しむことも含む」などの補足説明をして、イメージが湧きやすい表現に取り組むことでハードルを下げていく。 (2) 「今後の方向性」への評価に対する考え方 [アについて（成果指標①③）] R5年度も世論調査（小規模調査）を行うことから、区民の情報収集手段を分析しつつ、アナログとデジタルの使い分けについて検討する。 (3) 「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方 [イについて（成果指標②）] 計画に基づき行われている事業なのかわかりやすいように、文化芸術推進計画のロゴなどの設定を検討していく。

文化芸術推進計画 施策評価シート（令和４年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-2	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術の推進のためには行政機関、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等の関係者相互の連携及び協働が重要である」とされている。
足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合							
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：充実していない～5：充実している）							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	15.2%	23.8%		(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	-	-	21.7%	34.0%		

指標名②	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	21.2%	39.7%		(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	-	-	30.3%	56.7%		

指標名③	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	-	19.1%	37.6%		(70.0%)
目標値（R7）	70.0%	達成率	-	-	27.3%	53.7%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	0	1	0	1	4
%	50%	0%	0%	25%	0%	25%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（15.2%→23.8%）、指標②実績値（21.2%→39.7%）、指標③実績値（19.1%→37.6%）の3つの指標については3計画アンケートが未実施のため、R4年度は区政モニターアンケートを実施した。それぞれR3年度を上回った。

【要因分析】

ア コロナ禍の影響による制限が緩和され、R3年度と比較すると文化芸術交流の機会やイベントが実施できるようになり、区民の割合が向上したと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

ア 音まち千住の縁「仲町の家」では、若手アーティストや学生により14プログラムが開催された。そのほか、「駅からハイキング」などの立ち寄りスポットとなり、来場者数は9,067名と過去最高を記録した。

イ 東京藝術大学と連携したコンサートでは郷土博物館・中央図書館へのアウトリーチを行い、それぞれ「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携が図られた。特に中央図書館では、会場の出入り口に藝大や音楽に関連する展示および臨時貸出カウンターを設置し、コンサート来場者が図書館利用へとつながった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 六町ミュージアム・フローラなどの区内5つの民間文化施設を紹介するパンフレットに「動画で見るコンサートinミュージアム」のQRコードを加えるなど、文化施設を支援することで文化芸術の輪を広げる。

【中長期の取り組み】

ア 文化団体連合会の文化祭や郷土芸能保存会の発表会などの活動の場を通して、引き続き活発な交流が行われるよう支援する。また、足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区合唱団の3団体での意見交換会などを通じて交流を深め、文化芸術の活性化を図っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

「足立区独自の文化芸術の創出と継続のために、若手アーティストの北千住への集積や創業支援のような文化芸術の産業化発展に期待する」の助言については、提言の「産業化発展」には着手していないが、千住を中心に活動している「音まち千住の縁」や、えんチャレ登録団体を支援することで文化芸術の産業化のきっかけづくりにつなげていく。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	3	3	3	3
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 「連携事業及び交流会が充実していると感じている区民の割合」はR3年度に比べて8.6ポイント増加しているが、R7年度目標に比べて約3割程度であり、さらなる努力が必要である。 イ 音まち千住の縁「仲町の家」のような若手アーティストや学生との連携は、文化芸術へ触れる新たな機会を創り出し、文化芸術活動者の裾野の広がりにつながるため評価できる。 ウ 藝大連携コンサートのアウトリーチでの「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携は、音楽に興味がない方への音楽に触れる機会の創出であり評価できる。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 施策目的の「文化芸術の推進を図る」を実現するためのプラットフォームの形成という手段が目的化しないように効果的な交流会の検討が必要である。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア 文化芸術の産業化については、区として何ができるか、他自治体の事例調査や民間との連携事業などを研究し、課題を整理する必要がある。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 音まち千住の縁「仲町の家」は、街の文化施設としてすばらしい機能を果たしている。 イ 藝大連携アウトリーチによる「音楽×文化財」「音楽×読書」の分野間連携に今後も期待したい。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 「コンサートinミュージアム」は、特徴ある施設を活用した5施設連携の企画で評価できるが、年間の催し物回数が少ない。ラ・フォル・ジュルネ※のような全施設同時開催（各施設でスタイルの異なる音楽プログラム、1施設で複数回のコンサート）のようなユニークな活動も可能ではないか。 イ 藝大以外の大学とのさまざまな連携企画の可能性にも期待したい。 ウ 動画サイトなどによる、活動成果の効率よい発信を期待したい。 ※ フランスのクラシック音楽祭。複数の会場で多くの演奏者が連続してコンサートを行う。世界各国へ広がりを見せ、日本でも東京・金沢・鳥栖等で開催し成功を収めた。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア 足立区には若手アーティストが定着して活動する土壤があるので、創業支援のような文化芸術の産業化発展や公共スペースでの発表などの助成が効果的と思われる。				

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方 〔イについて（成果指標①②③）〕 東京藝術大学連携事業では、六町ミュージアム・フローラで「美術×音楽」を相互に楽しめる場としてコンサートのアウトリーチを実施した。引き続き、分野間連携を検討していく。 (2) 「今後の方向性」への評価に対する考え方 〔アについて（成果指標①③）〕 イベントの同時開催については、効果も踏まえ検討していく。 〔イについて（成果指標①③）〕 大学についての連携事業については、効果も踏まえ検討していく。 〔ウについて（成果指標②③）〕 「動画で見るコンサートinミュージアム」など、動画サイトによる発信を進める。 (3) 「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方 〔アについて（成果指標①）〕 えんチャレ(メジャー)での活躍を目指す若手アーティストの支援)登録団体を支援することで文化芸術の産業化のきっかけづくりにつなげていく。また、令和5年10月にオープンしたアーティストの活動をサポートする「東京芸術文化相談サポートセンター『アートノト』」を紹介することで、文化芸術の産業化を支援する。				

令和5年度 読書部会における重点施策への助言総括

1 対象施策

施策 1-1 乳幼児が本に親しむ機会の充実	… 6 事業
施策 1-4 子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信	… 12 事業
施策 3-2 読書活動推進のための多様な連携と協創の推進	… 3 事業

2 令和5年度 読書部会からの助言総括と区の方

今年度の助言に向けて、本部会では「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマとし、主に「子どもたちへの読書推進のためには保護者も含む大人の読書活動が大きな影響を与えること」「活発な活動を展開するためには多様な組織・機関・団体が連携した協働が重要であること」「デジタル環境が定着し生成AI等の新しい技術も出現している状況を効果的に利用すること、また逆にデジタル環境に過度に依存しすぎないこと」などを中心に検討してきた。

その中で挙げた論点を中心に助言をまとめる。

(1) 助言総括1 子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供

子どもたちの読書活動には、保護者を含めた子どもを取り巻く周囲の人々の読書活動が大きく影響しており、単に子どもたちだけではなく、大人に対しても働きかけることが重要であると考えられる。また、子どもたちの興味関心を喚起するためには、大人目線での活動だけではなく、子どもの視点に立った活動も求められる。

ア 乳幼児を対象とした絵本配付手法の再検討

読書への興味は、乳幼児の段階での環境が生涯にわたって大きな影響を与えるとされる。子どもに最初のきっかけを与える施策として、また保護者に対しても興味を喚起するという意味でも、「あだちはじめてえほん」は効果的であり、特に3・4か月検診時の配付が順調であることは高く評価できる。

ただし、1歳6か月児を対象とした活動での引換率が低いのは残念である。このような事業では多忙な保護者の負担をどのように軽減するかが重要であり、引換券を介して配付する現在の方式を再検討することも望まれる。

イ 学校図書館活動の充実と学校図書館・公共図書館の積極的な連携

学校での読書活動の中核を担うという観点から、また調べ学習など考える力を涵養するという点からも、学校図書館の活動は非常に重要であり、学校図書館司書教諭および学校図書館支援員も含めた積極的な活動が望まれる。

また、学校図書館の活性化には、資料や情報提供システムが充実した公共図書館との連携も必然であろう。

さらに、公共図書館を通じて各種外部機関まで広がる連携など、幅広い活動を行う環境づくりも求められる。資料の提供に際して、「あだち電子図書館」で

は児童書も数多く含まれており、これらを学校教育に効果的に取り込むなどの工夫も期待される。

ウ 読書に関する情報提供方法の多様化

読書活動においては、読書の楽しさ、読書の効果などをできるだけ多様な手段で子どもたちに伝えることが望まれる。さらに子どもたちだけにとどまらず、保護者にも積極的な情報提供を行うことが重要である。その意味で同世代の子どもたちからの推薦を掲載した広報誌や、読書の有効性を掲載したちらしの作成などの工夫は高く評価できる。

《助言総括 1 に対する区の考え方》

「親子での読み語りの割合」が比較的高い水準で推移する一方、「子どもの読者と保護者の読者の関連を知っている」保護者の割合は5割前後に留まっている。計画の一部改定も踏まえて、令和6年度から新たな取り組みも進めていく。

ア 1歳6か月児への絵本配付率の改善策として、施設内に引換施設（子育てサロン等）がない保健センター2か所（中央本町、東部）にて中央図書館の職員による絵本の出張引換を試行で実施（約3か月間）した結果、配付率が大幅に向上した。令和6年度は同センターにおいて通年での出張配付を実施し、引き続き配付率の向上に努めていく。

イ まずは、児童・生徒の調べ学習などの力を涵養するため、現在読書活動を中心に利用されている学校図書館の学習の場面での活用を広げていく。具体的には、「学校図書館利活用推進校」の指定等により、探究的な学習における図書館活用の好事例を作り他校へ横展開していく。あわせて、学校図書館スーパーバイザーの巡回指導や研修の充実などにより、図書館担当教員や学校司書等に対して、授業における活用方法や学校図書館のレイアウト、選書等に関する助言を行い、利活用促進に繋げていく。また、現在公共図書館とは、図書の配送サービスで連携しており、今後も充実を図っていく。

ウ 妊娠期・子育て期の保護者を対象に、読書の効果を周知するためのリーフレットを配付するとともに、乳児向けの「読み語りにおすすめの絵本」や「読み語りのガイドブック」を区ホームページ・SNSなどで発信していく。また、既存の図書館情報誌については、紙の配布だけでなく、児童・生徒のタブレットから簡単にアクセスできる工夫やプッシュ型の情報発信を検討していく。

（2）助言総括 2 多様な連携による読書活動の推進（図書館を利用しない人、読書に関心がない人にも届く効果的なアプローチ）

読書活動の推進をはかるには、図書館を利用しない人や読書に関心がない人に対していかに効果的なアプローチをとることができるかが重要である。そのためには図書（電子図書も含む）などを単に陳列するだけではなく、人々の興味を刺激するきっかけとなる活動を展開し、読書の面白さや有効性を積極的に周知・広報

していくことが求められる。

ア イベントなどの読書推進活動における多様なテーマ展開

人々に興味を持ってもらう行動としては、選書の充実や展示のような図書館が従来から行ってきた活動も重要であるが、イベントの開催などの積極的な活動も期待される。人々の興味が多様であることを考えれば、多様なテーマ展開がなされることが望ましい。また、長期間にわたって継続的な活動を持続することも重要である。

イ 多様な外部機関との積極的な連携

継続的に多様なテーマのイベントなどを開催することは図書館単独で行うことは不可能である。民間施設や出版社、書店など外部の機関と連携した活動が企画できるかが重要であろう。最近の図書館活動において外部機関との連携した活動が積極的に行われていることは高く評価できる。今後とも積極的な活動展開を期待する。

ウ 継続的な実施が可能な連携計画の工夫

限られた予算や人員の中で効果的な事業を行うためには、各種省力化の工夫も重要である。デジタル化をはじめとした新しい技術の利用も積極的に進めることも望ましい。図書館内などでの検討だけではなく、アイディアソン・ハッカソンなども活用して外部のアイディアも取り込むことなども考えられよう。

エ 図書に興味を持つ人々に対する多様なイベント展開

読書に興味がない人々に対してだけではなく、図書に興味を持った人に継続してもらうための活動も検討することが望ましい。場合によっては同様のテーマで内容を変えるなども考えられよう。

《助言総括2に対する区の考え方》

区の世論調査では、最近1か月において「図書館に行く」と答えた人がおよそ8人に1人（約12％）と、低い水準となっている。今まで図書館を利用しなかった人、読書に関心がなかった人でも図書館に足を向けるきっかけとなるよう、講座やイベントを積極的に開催するとともに、利用者の新たな居場所となるような空間づくりを進めていく。

ア 引き続き、図書館の内外において様々なイベントを企画していく。特にアウトリーチ型のイベントについては、令和5年10月にA－F e s t aで紙芝居の読み語りを実施し2日間で約400人が参加したことから、今後は他のイベントとの連携を検討していく。

イ 3分野計画策定以降、従来型の図書館単独のおはなし会や講演会に加え、生物や歴史、宇宙、音楽など、多様なテーマのイベントを外部機関と連携して実施してきた。直近では、令和6年3月にシアター1010の劇場公演の集客力を活用した読み語りイベントを企画しており、外部機関の強みや特徴を生かした連携を引き続き進めていく。

ウ デジタル化をはじめとした新しい技術の利用については、まずは学識等の意見や先進事例の情報を収集していく。また、外部のアイディアの取り込みについては、令和6年度に民間から登用する「図書館サービスデザイン担当課長」のこれまでの知見や人的ネットワークも活用しながら、検討していく。

エ 図書に興味を持った人（「気づき」）を継続的な読書（「深め」「広げ」）につなげられるよう、たとえば読書の感想を語り合う読書会を実施するなど、興味や関心の度合いに応じた企画を検討していく。

（３）助言総括３ アフターコロナやデジタル化の進展などの変化に対応した読書支援活動

近年のデジタル化の進展は、コロナ禍ともあいまって人々の行動様式・生活様式を大きく変えてきた。学校教育にタブレット端末を用いた学びが導入されており、読書活動についても電子書籍を利用する人が若年層を中心に少しずつ増加してきた。これにより読書環境・読書を行う場所の多様化や読み方の変化など広い範囲の影響が想定される。また、情報源としての図書の役割もウェブ環境、検索エンジン、動画配信サイトなども含めて使い分けが必要な時代となっている。さらに生成系ＡＩの出現などもあり、読書支援に関してもより多様な変化を見据えた幅広い活動が重要となっている。

既に今までの活動の中で、電子書籍の導入などデジタル化に対する対応が進められてきていることは評価できるが、今後、より速度をあげる形で対応が望まれる。

ア デジタル資料提供のさらなる充実

紙資料だけにとどまらないデジタル資料の導入を進めてほしい。「あだち電子図書館」の充実は急務である。ただし、紙資料の重要性にも留意し、紙資料とデジタル資料のバランスに配慮することも求められる。

イ 利用統計に基づく紙資料・デジタル資料の選定

限られた予算の中で紙資料とデジタル資料の両方を充実させることを考えれば、館内閲覧と館外貸出の状況を詳細に分析して両者の利用予測を行うことが望まれる。ただし、全ての人に多様な情報を提供する公共図書館の役割を考え、単に利用の多寡だけを指標としないことに留意する必要がある。

ウ 「あだち電子図書館」への簡便な登録の仕組みづくり

「あだち電子図書館」のような新しい仕組みについては、実際の利用回数を増やす工夫も必要であるが、それ以前に登録者を増やすための仕組みづくりが重要である。工夫をこらした広報や、簡便に利用登録ができる手段など多様な方策の検討が望まれる。

エ 障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩなどの新技術への対応

デジタル資料を中心とした電子図書館の特性を生かした新たな活動の展開を期待する。障がい者に対する高度なサービス展開や生成系ＡＩをはじめとした

新技術に足立区内の子どもたちが乗り遅れない情報提供体制の構築も急務であろう。

《助言総括3に対する区の考え方》

近年の通信環境の充実やICTが進歩している中で、電子書籍市場規模の拡大などにより、読書分野を取り巻く環境は急速にデジタル化が進行している。こうした環境の変化への対応として、電子書籍の蔵書数の充実に取り組んでいくとともに、区のDX化の方向性に合わせながら、利便性の向上に努めていく。

ア 電子書籍については、主なターゲット層などを踏まえて計画的に選書を行うとともに、紙の本とのバランスや電子書籍の普及状況に留意しながら、蔵書の充実を図っていく。

イ 紙資料とデジタル資料の両者の充実を図っていくため、利用状況の分析と予測のほか、学識経験者をはじめとする専門家など外部の意見も取り入れながら、今後の区の蔵書のあり方についての計画を策定していく。

ウ 令和5年10月から電子図書館システムと図書館システムとの連携を開始したことにより、区立図書館の利用登録があれば電子書籍を読めるようになり、利用対象者が大幅に拡大した。対象者の拡大が実際の利用回数の増につながるよう、引き続き周知活動に努めていく。

エ 障がい者団体への聞き取りを通じてデジタル資料へのニーズが高いことを確認できたため、実態に合わせて必要なサービス展開につなげていく。生成系AIをはじめとした新技術の子どもたちへの情報提供体制の構築については、教育委員会と連携して取り組んでいく。

（4）助言総括4 読書支援活動の指標

読書支援の中心となる図書館に関わる指標としては、図書館の来館者と貸出冊数だけに注目されるのが現状である。しかし、図書館を実際に利用する人が必ずしも区民の多くを占めるわけではないという現状を考えた場合、図書館に来館した人を中心とした指標だけではなく、図書館を利用しない人に対する働きかけも重要な意味を持つと考えられる。また、図書館の役割は単に所蔵する図書を貸し出すというだけではなく、情報提供や場の提供など多様である。

したがって、図書館を評価する際には貸出冊数の多寡ではなく、来館者にどのような多様なサービスが提供されているのか、また非来館者に対してどのような活動ができているのかも評価する指標を検討する必要があるだろう。さらに、ある程度読書支援活動が進んできた段階では、読書をしたかどうかという量的な側面だけではなく、読書によって人々にどのような影響がもたらされたのかというインパクトやアウトカムを把握することも必要となるだろう。

《助言総括4に対する区の考え方》

図書館の役割が多様化している現状を踏まえ、国や都の指標なども参考の上、計画の本改定に合わせて短期的・長期的成果（インパクトやアウトカム）の把握可否や測定方法について検討していく。

なお、貸出冊数や来館者数などの基本的な指標についても、現計画の進行管理のため、計画の本改定まで引き続き把握と評価を行っていく。

読書活動推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-1	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。加えて、本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。
 区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	親子での読み読みの割合							
指標の定義	3歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	86.9%	実績値	86.9%	91.1%	91.5%	89.7%		(97.0%)
目標値（R7）	97.0%	達成率	89.6%	93.9%	94.3%	92.5%		

指標名②	1か月間に本を読んだ就学前児童の割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	83.9%	実績値	83.9%	77.1%	77.2%	77.6%		(88.0%)
目標値（R7）	88.0%	達成率	95.3%	87.6%	87.7%	88.2%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	1	1	0	0	7
%	43%	29%	14%	14%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
 指標①実績値（91.5%→89.7%）は減少し、R7年度の目標値（97.0%）を下回った。
 指標②実績値（77.2%→77.6%）はR3年度とほぼ横ばいで、R7年度の目標値（88.0%）を下回った。
 【要因分析】
 (1) 指標①については、子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合（施策1-4・指標①）が5割前後に留まっていることから、読書に対する保護者の理解が進まず、実績値が減少したと考えられる。
 (2) 指標②については、各保育・教育施設での読み語りや、年齢に合った本の紹介、園での本の貸出の再開などが、子どもが自ら本を手取ることに繋がっていると考えられる。
 【新しい生活様式への対応やその他実績等】
 (1) 「あだち電子図書館」によって、図書館に来館しなくても絵本に親しむことができるサービスを提供した（R5年3月31日現在、利用登録5,455人、うちR4年度新規1,249人、R4年度貸出17,845回）。
 (2) 「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）において、健診対象者約4,000人に絵本の配付とあわせて仮登録した貸出カードを配付し、図書館への来館につなげた（240人が図書館で本登録）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
 (1) 引き続き図書館や保育園、子育てサロン等でおはなし会を実施し、親子で本に親しめる環境を提供する。
 (2) 「あだちはじめてえほん」事業において、1歳6か月児の絵本引換率の向上を図るため、引換率の低い健診会場で出張配付を行うなどの改善策を令和5年度中に試行する。その実績を分析のうえ、令和6年度以降に再度見直しを検討していく。
 【中長期の取り組み】
 (1) 大人の読書への関心が子どもの読書習慣に影響を与えることから、読み読みの大切さや読書の意義、効果などを伝えるだけでなく、大人も本を楽しめる事業を展開するなど、アプローチを工夫することで子どもの読書習慣形成につなげていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「電子図書館のターゲットを設定したサービス展開が求められる」との評価を踏まえて、「あだち電子図書館」では引き続き「子ども」「子育て世代」と中心とした資料収集に努めた。令和5年度もこの方針を継続し、子どもとその周囲の大人が楽しめるよう、電子書籍の充実を図っていく。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 微増傾向にあった指標①の実績値が減に転じたことは残念である。3歳児とその保護者への働きかけについて、乳幼児が多く利用する地域開放型図書室「わくわく にこにこ 図書の森」の利用状況やアンケート結果を参考にするなどして、指標の改善に向けた取り組みを進めてほしい。
- イ 子育てサロンで大型絵本の読み語りの回数を増やすなど、各施設が工夫し、子どもに本に触れる楽しさを伝える機会を作ることができたことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 「あだちはじめてえほん事業」の1歳6か月の引換率が伸びないことは数年来の課題であり、改善の取り組みによって引換率が向上することを期待する。
- ウ 図書館だけではなく、身近な場所で本に親しむことができることは、子どもが本を楽しむきっかけづくりにつながる。関係機関とさらに連携していくことを期待する。

(3) 「評価の反映状況」への評価

- ア 「あだち電子図書館」で引き続き子ども向けの電子書籍の貸出が伸びていることは、ターゲットを絞った蔵書計画が一定の成果を得ていることの現れであり、評価できる。

5 推進委員会による評価（令和5年8月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 実績値だけを見ると目標を下回ったということにはなるが比較的高い水準で推移している。また、読書に対する保護者の理解が進んでいないことが要因となっていることが明確となったことは重要な知見で今後の施策に生かしていくことが望まれる。
- イ 「あだちはじめてえほん」事業について、3・4か月児健診での配付は順調で効果もあげている。一方、1歳6か月児対象の施策についてはさらなる工夫も必要。
- ウ 貸出カードの仮登録自体は評価できるが、これを起点として本登録した方の割合が6%という実績は低調。より多くの区民が登録してもらえ仕掛けなど発展させる工夫が望まれる。
- エ 各保育・教育施設における施策が一定の効果があったことは評価したい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 1歳6か月児健診での絵本の引換方法はアレンジが必要。特に、その場で本を受け取れるようにするなど利便性の向上は必須ではないか。また、大人が本に親しめる機会を作るために、はじめてえほんの配付時に、大人用の本の貸し出しや、電子図書館へつなぐ支援の強化等も検討してほしい。
- イ 中長期の取り組みのテーマは評価したい。オンライン上で保護者に対して読書に関する付加価値、メリットを啓発することができれば、子育て等で忙しい人も空き時間に知識を深めることができるのではないかと。
- ウ 「与える」読書から「自発的な」読書への転換時期に対する積極的な取り組みを期待したい。自ら読む本を選び、次の一冊につなげるには、直接子どもたちに読書の意義や効果を考える時間を提供することがもっとも大切と考える。

(3) 「助言の反映状況」への評価

- ア 電子図書館により利用者の幅が広がることを期待したい。並行して、電子書籍とSNSやインターネット上の文字情報の違いをしっかりと伝える必要があり、それに対する施策も検討してほしい。
- イ 3歳児は保育園や幼稚園に通う子も多く、親子だけでなく、保育園での読書活動や読み聞かせの状況も反映してほしい。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和6年2月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

[イについて（成果指標①）]

1歳6か月児への絵本配付率の改善策として、令和5年度に試行で実施した保健センター2か所（中央本町、東部）での中央図書館の職員による絵本の出張引換を、令和6年度も継続して実施していく。

[ウについて（成果指標①）]

単に仮登録したカードを配付するだけでなく、図書館の利用方法やイベント情報を周知したり、仮登録から本登録した場合にはプレゼントを渡したりするなど、図書館へ足を運びきっかけづくりを行っていく。

(2) 「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

[アについて]

はじめてえほん配付時の大人への本の貸出については、保健センターとも協議の上、実施の可否を検討する。電子図書館のPRについては、引き続きチラシの配付により周知を図っていく。

[ウについて]

子どもたちが読書の分野を広げたり、本の内容を深めたりすることができるよう、読書の意義や効果を伝える手法に関して、教育委員会が教員や学校司書への指導・助言等を実施していく。

(3) 「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方

[アについて]

本や電子書籍は正確性や信憑性に優れていること、また得たい情報を体系的に得られるということをもPRしながら、インターネットによる検索も含めて子どもたちの情報活用能力を育成していく。

読書活動推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-4	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

区立図書館や幼稚園等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合							
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	41.6%	実績値	41.6%	51.1%	51.7%	52.0%		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	52.0%	63.9%	64.6%	65.0%		

指標名②	親子で絵本を読む割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	75.5%	実績値	75.5%	77.1%	79.6%	80.0%		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	94.4%	96.4%	99.5%	100.0%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	0	0	3	1	2	13
%	54%	0%	0%	23%	8%	15%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（51.7%→52.0%）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（80.0%）は下回った。

指標②実績値（79.6%→80.0%）はR3年度を上回り、R7年度の目標値（80.0%）を達成した。

【要因分析】

(1) 指標①については、「あだちはじめてえほん」事業でのPRや、学校だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みを行っているものの、本に興味のない保護者へ向けたPRが十分に進んでいないことが要因と考えられる。

(2) 指標②については、各教育・保育施設で行っている絵本の貸出が親子で読む絵本を選んだり楽しんだりするきっかけになっていることによるものと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 「あだちはじめてえほん」事業のアンケートで、「ほとんど本を読まない」保護者の割合は、令和3年度から約13～16ポイント減少した（3・4か月児：61.6%→46.7%、1歳6か月児：61.1%→44.5%、3歳児：66.2%→53.0%）。

(2) 小学生が使用しているタブレットに、小学生向けのブックリスト「あつまれおもしろい本」の掲載ページのショートカットを作成し、アクセス数の大幅増につながった（1,285回→12,431回）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 乳幼児については、おはなし会の実施や親子で楽しめる本の紹介により、親子で読書に親しめる機会を増やしていく。

(2) 小・中学生については、普段読書をしない子どもでも読みやすい本を紹介し、読書へのきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

(1) 「身近な大人の読書冊数との関連性」を掲載したリーフレットを作成し、イベントで配付するなど、本に興味のない保護者にも幅広く周知していく。

(2) 子どもや保護者が本に関する情報を得やすいよう、図書館ホームページやSNSによる情報発信に加え、小・中学生に配布されたタブレットなども活用して情報発信をしていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) 「子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会の提供を」との評価を踏まえ、子育て世代を主な対象とした「ちょい読み」を継続して実施するほか、絵本の読み語りと大人に向けた絵本講座を実施する「あだち絵本シアター」などを通じて、読書のきっかけづくりを行った。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	4

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 「身近な大人の読書冊数との関連性」は子どもの読書習慣の定着につながっていくため、さらなる周知を図ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 「ほとんど本を読まない」保護者の割合が減る一方、指標①がほぼ横ばいに留まっていることは残念である。商業施設におけるイベントでリーフレットを配付するなど、本に触れる機会の少ない保護者にも届くようなアプローチ方法の工夫に期待する。

イ 子どもへの本の紹介にあたっては、引き続き年齢や発達段階に応じた本を紹介するとともに、令和5年度から新たに配置された学校図書館スーパーバイザーと連携し、取り組みの充実を図ってほしい。

(3) 「評価の反映状況」への評価

ア 3分野連携事業や複合施設の活用による本の展示などの既存の連携だけではなく、区民の新たな関心を喚起する取り組みを引き続き実施してほしい。

5 推進委員会による評価（令和5年8月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア スマートフォンの普及によって、本を読むことより手軽な映像を見る親子が増えている。親も含めて、本の魅力や活用方法を伝えるうえでデジタルの力を大いに活用してほしい。

イ 「本に興味のない保護者へ向けたPRが十分に進んでいない」とあるが、この点はもっともハードルが高い課題であると思う。読書世論調査における不読者の高さ(51.5%)を少しでも減らす工夫が望まれる。

ウ タブレットにブックリストへの導線を作成する工夫がアクセス数の増加に寄与したことは興味深く評価したい。細かな工夫の積み重ねの重要性を示してもおり、各種の工夫を今後とも期待したい。

エ コロナ禍の影響で実施できなかった事業があったことも要因と考えられる。今後に注視したい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア オンラインやYouTubeでのおはなし会、啓発活動など、デジタルの活用をもっと進めてほしい。また、リーフレットは「きっかけ」として有効であるが、これを生かすためQRコードからその先の詳細情報へ誘う等、さらなる工夫が必要である。数多くのチャレンジを期待したい。

イ 子ども達は、その本を誰が薦めているかによって「この人が言っているなら読んでみよう」と興味を持つことも多い。教育的立場からの紹介のみならず、子供たちと同年代や共感と呼ぶ立場からの紹介も望まれる。指導的立場の人々から仲間からの紹介という両輪が必要であろう。

ウ 普段読書をしない小・中学生への取り組みをさらに工夫する必要がある。就学前児童に対する施策とのバランスを考えると、不足している感が否めない。

エ コロナ禍の収束により、大いに事業を推進していくことを期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

ア 「あだちはじめてえほん」事業の中でのPRなど、電子図書館へつながる仕組みは評価できる。

イ 子どもとその保護者が身近な場所で本に親しめる機会を創る取り組みがなされていることは評価でき、今後も継続してくことを期待したい。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和6年2月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方

【アについて（成果指標①②）】

妊娠期・子育て期の保護者を対象に、乳児向けの読み語りにおすすめの絵本や読み語りのガイドブックを区ホームページ・SNSで発信するなど、デジタルを活用した情報発信を進めていく。

【イについて（成果指標①②）】

今まで図書館を利用しなかった人、読書に関心がなかった人でも図書館に足を向けるきっかけとなるよう、講座やイベントの積極的な開催や、居場所としての空間づくりを進めていく。また、引き続き、図書館の内外において様々なイベントを企画していく。

(2) 「今後の方向性」への評価に対する区の考え方

【アについて（成果指標①）】

デジタル化をはじめとした新しい技術の利用については、学識等の意見や先進事例の情報を収集のうえ、実施に向けて検討していく。情報発信については、リーフレットやSNSなどのプッシュ情報とホームページなどのプル情報を組み合わせて、効果的な手法を検討していく。

【イについて】

令和5年12月に、中高生向け図書情報誌「ティーンズ・スコープ」の特集企画として、区立中学校図書委員への「イチ推し本」アンケートを実施し、ランキング上位の本を紙面に掲載した。掲載本の貸出状況などを分析しながら、引き続き有効な方法を検討していく。

【ウについて】

小・中学生については、学校司書等への研修や学校図書館スーパーバイザーの巡回指導により、児童・生徒が利用したくなる学校図書館づくりに取り組んでいく。あわせて、児童・生徒が興味のある本に手軽に触れることが出来るよう、「あだち電子図書館」の蔵書の充実にも取り組んでいく。

読書活動推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-2	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指す。
 そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていく。また、読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組む。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	3分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合							
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしている。」以上を選んだ区民の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	79.8%	75.7%	71.0%		(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	—	159.6%	151.4%	142.00%		

指標名②	アウトリーチ事業の参加者数							
指標の定義	図書館の外で、読書活動推進事業に参加した方の人数							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	576人	620人	1645人		(1,800人)
目標値（R7）	1,800人	達成率	—	32.0%	34.4%	91.4%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	0	0	0	3
%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

- 【達成状況】
 指標①実績値（75.7%→71.0%）はR3年度を下回ったが、R7年度の目標値（50.0%）は上回った。
 指標②実績値（620人→1,645人）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（1,800人）は下回った。
- 【要因分析】
 (1) 指標①については、文化芸術またはスポーツをきっかけに読書につなげる「ちょい読み」のプログラム数が少なく、読書をしていない区民への働きかけ十分でなかったことが、指標の減の要因と考えられる。
 (2) 指標②については、各図書館の創意工夫による取り組みにより人数が増えたと考えられる。
- 【新しい生活様式への対応やその他実績等】
 (1) 中央図書館と地域調整課が連携して、外国にルーツを持つ児童・生徒を対象におはなし会と季節に合わせた工作会を実施し、本の楽しさ伝えた（4回・60人参加）。
 (2) 出版社と連携し、ジェイヴェルデ大谷田において、イラストレーターによる昆虫のスケッチ教室と昆虫に関する絵本の読み語りを実施した（19人参加／定員20人）。
 (3) シアター1010で開催された、文化のちから体験事業（絵本音楽会）と連携し、絵本の読み聞かせと出張図書館を同日に開催し、絵本に身近に触れる機会を提供した（延べ247人参加、91冊貸出）。
 (4) 中央図書館と東京芸術大学が連携したコンサートを初めて開催し、演奏に加えて、会場で音楽に関する本の閲覧・貸出を行った（100人参加／定員100人、20冊貸出）。
 (5) 10月に区制90周年記念事業として、郷土博物館が開催した企画展「琳派の花園あだち」と連携し、区立図書館15館で琳派に関する本を展示。また、琳派のデザインを掲載した特製しおりを区立図書館、区内の一部書店、郷土博物館等で合計30,000枚配付し、区の郷土を知るきっかけにつなげた【施策2-1再掲】。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

- 【短期の取り組み】
 (1) 普段本を読まない人でも気軽に楽しめるよう、読み語りイベントを多くの人が集まる商業施設などで開催していく。
 (2) 対面でのイベントに加え、オンラインの活用も図りながら、気軽に本に親しめる事業を検討していく。
- 【中長期の取り組み】
 (1) 民間施設や出版社、書店などと連携した活動を実施し、読書に興味がない人や図書館に来ない人が本にふれ、読書の楽しさを知ることができる機会を提供していく。

<評価の反映状況>評価の反映有無、その理由

- (1) 「図書館や図書館サービス、図書資料自体を切り口としないアプローチを期待する」との評価を踏まえ、東京芸術大学や郷土博物館など今まで連携していなかった組織と連携したイベントや展示を実施した。令和5年度も意外性やインパクトを意識した企画を検討していく。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	4	4	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標①については、年々数値が下がっているため、新たな場所や切り口を検討するなど、工夫を図ってほしい。 イ 本に親しむきっかけとして、新たな組織と連携を試みたことは評価できる。 ウ アウトリーチ事業として、各館の様々な取り組みは、普段読書をしない人にもアプローチできるものであり、今後も継続して実施してほしい。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア アウトリーチ事業については、図書館以外の場所への事業実施の働きかけを積極的に行うことで、読書に親しむポイントを数多く提供できるよう努めてほしい。 イ イベントについては、新たに大人向けの読み語りイベントを企画するなど、読書の裾野を広げる取り組みにチャレンジしてほしい。 ウ 民間書店の展示方法やポップの使い方などの事例も参考にするなど、幅広く情報収集してほしい。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア 引き続き、新たなアイデアや連携により分野を越えた事業を工夫して行い、区民が本に親しむためのきっかけづくりを充実させてほしい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 様々な事業を実施していることは評価できる。さまざまな観点からの積極的な取り組みから成果が生み出されることが期待される。 イ ただし、事業の多くは69万人の区民に行き届くところまでは達していない。<u>多くの方が参加できるように、駅近や大型スーパーで実施するといった定員や場所、開催日時の工夫や、オンライン開催を併用するなど、よりきめ細かな計画策定を行うことが望まれる。</u> ウ 様々な施策により、図書館以外の場所での読書活動推進事業（アウトリーチ事業）への参加人数が伸びたことも評価したい。これらは広義での読書体験につながる可能性があり、今後も期待する。 エ 広報誌やホームページで図書館の事業を目にする機会が多くあり、取り組みが広く知られてきていると感じる。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア <u>大型施設などの民間施設や出版社、書店との連携など、外部の組織と協同した施策を今後とも大いに期待する。</u> イ 紙の本を読むことだけが読書ではない。<u>広義での読書体験の機会を創出してほしい。</u> ウ コロナ禍の影響下で取り組んできたホームページやSNSなどは、今後も有効な手段になると思われる。生成AIなど新しい技術も出現してきており、デジタルツールを効果的に利用した活動展開の一層の活性化に期待する。 エ <u>リアルな広報活動に加えて、デジタル空間で行われるイベントも中長期的に検討が必要である。</u> (3) 「助言の反映状況」への評価 ア 3分野連携の取り組みが進んでいることは評価できる。 イ 連携の際は、<u>図書館主催だけではなく、様々なイベントに図書館や読書の要素をプラスしていくことも計画し、限られた資源を効果的に利用する省力化にも注意を図ってほしい。</u>				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和6年2月記載）
(1) 「現在の達成状況」への評価に対する区の考え方 [イについて（成果指標②）] 令和5年10月のA-Festaで実施したプロによる紙芝居の読み語りには、2日間でのべ約400人が参加した。人が集まるイベントや場所との連携の効果が確認できたため、引き続き実施していく。 (2) 「今後の方向性」への評価に対する区の考え方 [アについて（成果指標②）] 一度に多くの人に対して本に触れる機会を提供できるよう、令和6年3月にシアター1010の劇場公演の集客力を活用した読み語りイベントを企画している。こうした外部機関の強みや特徴を生かした連携を行い、活動の幅を広げていく。 [イについて（成果指標②）] 直接紙の本を読むだけでなく、複合施設内で本の情報に触れたり、まちなかで読み語りのイベントに参加することも広義の読書と捉え、引き続きアウトリーチ型の展示やイベントを実施していく。 [エについて（成果指標②）] 令和10年1月に開設予定の梅田八丁目複合施設では、紙の本とデジタルが融合した新たなサービスの実施を目指している。最新技術の動向を注視しながら、令和6年度から本格化する同施設の設計業務の中で、デジタル空間でのイベントについても検討していく。 (3) 「助言の反映状況」への評価に対する区の考え方 文化、スポーツ分野の事業や区の大規模イベントにおいて、おはなし会や「本のとらば一ゆ」を実施するなど、省力化を図りながら本とのタッチポイントを効果的に創出していく。

令和5年度 運動・スポーツ部会における重点施策への助言総括

1 対象施策

施策 1-1 子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり	…29 事業
施策 1-2 だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実	…10 事業
施策 2-1 身近な場所における運動・スポーツの推進	… 6 事業
施策 2-2 協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり	… 3 事業
施策 3-2 運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング	… 7 事業

2 令和5年度 運動・スポーツ部会からの助言総括と区の考え方

令和5年度の本部会では「重点項目の推進のために何ができるか」をテーマに掲げ検討した。その中で挙げた論点を中心に報告する。

(1) 助言総括 1 誰もが運動・スポーツを身近な存在であると実感できる取り組み

成果指標である「運動・スポーツを週に1回以上実施している」の実績が35.2%にとどまってしまったという現状を受けて、誰もが運動・スポーツを身近な存在であると感じて取り組むきっかけづくりを促進する方法を検討した。

ア 「運動・スポーツ」の定義と「運動・スポーツ」の価値や意義の啓発の必要性

厚生労働省のeヘルスネットによると運動とは、「身体活動のうち、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施し、継続性のある活動」としており、その具体例としては、いわゆるスポーツの内容とともに余暇時間の散歩や活発な趣味も運動として定義されている。

区のアンケートの設問の中で具体的な例示がされていないことで、区民が「運動・スポーツ」の定義を狭く捉えてしまっている可能性があると考えられる。散歩や日常生活で積極的に身体を動かす事（例：階段利用、一駅歩き）なども「運動」であることを明確に伝えていく必要がある。これにより国や都との運動実施率の差や35.2%という低い成果指標の結果も異なってくる可能性がある。

アンケートでは、スポーツへの関心のきっかけとして、「学校の授業や行事・部活動の経験」が最も多く、続いて「美容・健康を意識して」が挙げた。例えば、運動をしないことで害する健康リスクについてなど、ネガティブな情報を発信し、そのインパクトが「今、身体を動かしておかなければ」というきっかけになることもあろう。様々な伝え方の工夫で、運動・スポーツをする価値を言語化・見える化することで上手にきっかけづくりに導いてほしい。

イ 自宅や職場でできる運動・スポーツの推進と情報発信の強化

パラスポーツのイベントやパークで筋トレへの参加者数は増加しており、ウォーキングやランニングをしている人もよく見かけるようになった。区民の運動への意識が高くなってきていることを日々の生活の中でも実感することが多

くなっており、施策の成果として評価できる。

一方で、今まで取り組んだことのない方が運動・スポーツを始めるためには、どの年代でも誰もが取り組める運動・スポーツの情報がまだまだ不足していると感じる。例えば、車椅子の方だけでなく健常者も座位のままできるスポーツやストレッチなどの紹介は区からの情報の中ではなかなか見当たらない。

生活の中でできる簡単な運動のアイデアを、民間スポーツ施設の指導ノウハウを活かしながら動画やホームページなどで紹介するなど、今まで届きにくかった層への発信力を高めてほしい。

また、参加できる運動・スポーツを探す際には、スポーツ関連イベントを集約したカレンダーやネット上の情報ポータルなどがあるとわかりやすい。必要な情報に触れやすくすることで興味が高まり、参加しやすくなるであろう。

ウ 運動・スポーツに触れるきっかけづくり

過去1年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した割合は42.1%と低い。

運動・スポーツそのものへの関心を高めるため、区内の身近なヒーローをクローズアップするとよいであろう。さらにその身近なヒーローを日常生活の中で目にする機会を増やしていただきたい。

足立区に縁のあるスポーツ選手の情報を集約するために、区民から情報提供できる工夫を検討して頂きたい。そして様々な機会や媒体を使って彼らの活躍を紹介し、応援・観戦の機会を増やすなど、様々なスポーツに触れられる工夫としてほしい。

《助言総括1に対する区の考え方》

スポーツ実施率が低いという課題を解決するためには、誰もが運動・スポーツを身近な存在であると感じることができるきっかけづくりとなる取り組みを広げることが大切である。

ア 運動・スポーツとして定義するものが競技スポーツだけではなく、普段の生活の中で行う積極的な「身体活動」や散歩なども含まれることを、運動・スポーツに取り組むことで生まれる価値や効果を言語化・見える化する工夫と合わせて、健康リスクなどネガティブな情報も含め発信していきたい。

イ 運動・スポーツに取り組むこと自体にハードルが高いと感じている区民に対しては、ウォーキングや散歩、動画をみて取り組む体操やヨガといった「自宅（のそば）でできた」「少しの時間でも楽しめた」「思ったより簡単だった」といった運動・スポーツを身近に感じ、またやってみたいと思うような事業展開に取り組んでいく。

その事業が、「いつ」「どこでできる」かをわかりやすく整理し、必要な情報に触れやすくできるよう、区スポーツ事業関連のホームページの改善を検討していく。

ウ 足立区に縁のあるスポーツ選手の活躍を通じて、より身近に運動・スポーツ

を感じてもらうことは、スポーツに関心を持つきっかけになると考える。区に縁のある選手やチームを同じ空間で応援する「パブリックビューイング」の場を設けたり、プロチームや国内トップ選手が参加する競技大会を間近で見る機会を提供するなど、「みるスポーツ」の充実を図ることで、様々なスポーツに触れられる工夫をしていく。

(2) 助言総括2 身近な場所で運動・スポーツを楽しめる取り組み

成果指標である「運動・スポーツを行っている場所について『自宅』『自宅周辺』『職場』『職場周辺』と回答した方が69%となっており目標値である50%を超えていることは評価できる。しかし、週1日以上スポーツしている人が35.2%と少ないことから、実際に身近な場所で運動・スポーツを行っている人は多いとは言えないだろう。そこで部会としては、下記の点を助言したい。

ア 地域資源「銭湯」を活用したランニングステーションなどの展開

ランニングは散歩とともにニーズが高い運動である。区内で「歩く」「走る」ことへの価値づけとして、観光資源や文化施設を巡るコースを設定したり、活用することで、新たな区の魅力に気づき、より楽しさが広がると考える。

すでに区内のいくつかの銭湯ではランニングステーションとしての利用が可能であるが、あまりその情報は知られていない。区がシティプロモーションとして活用している「銭湯」を活かしたランニングステーションの展開とその広報を期待する。

また、広い脱衣所を利用したヨガ教室の開催などを組み合わせ「汗を流す」イベントを開催するなど、「銭湯」という地域資源をもっと積極的に運動・スポーツにつなげてみてはどうか。

イ 民間施設との連携の更なる強化

昨年度は、東京ヴェルディ(株)との連携協定による障がい者の運動機会の充実と区民のJ2サッカー観戦の機会の拡大、それに加えて今年度、新たに民間スポーツ事業者の休館日を活用したプール施設の区民開放を実施したことは評価できる。身近な場所で活動場所をより多く提供するためには、区施設だけではない場所の活用が今後、大きな意味を持つ。

区内には民間のフィットネスジムなども多く点在するので、各施設の休館日利用を工夫するなどし、より多くの方が運動・スポーツに触れる機会を確保していったほしい。

ウ 身近な場所以外を選んで活動している方へのアプローチ

区外であえて活動している方は、区内に求めている運動・スポーツの場がないのではないだろうか。例えば、障がい者は広い駐車場やバリアフリーとなっている施設を遠くとも活動の場を選んでいる。また、施設の設備だけでなく、ソフト面での配慮が行き届くことで、誰もが区内施設を選んで使用してみようというきっかけになるのではないか。利用者目線での身近な場所で利用できる

場の拡充を民間施設も含めて検討してほしい。

エ 「健康×ポイント×お買い物」などお得感によるアプローチ

ウォーキングの歩数や健康診断など運動・スポーツや健康に関する行動などで、ポイントがたまるアプリ利用などを検討してはいかがか。獲得したポイントが、区内の店舗などで利用可能となるような工夫を行うことで、運動・スポーツへのモチベーションが高まることを期待する。

《助言総括2に対する区の考え方》

35.2%の週1回以上運動・スポーツに取り組んでいる方のうち69%が、『自宅』『自宅周辺』『職場』『職場周辺』と生活の場に近いところで行っていることが判明している。これから取り組もうと思っている区民や、取り組めていない区民に対しても、身近なところで気軽に継続できる場を活用してできる機会を増やし、その活動を知ってもらうことが重要と考える。

ア 区内には、公設のランニングステーションは設置していないが、荒川河川敷に近い千住地区の銭湯では、ランニングステーションとしての活用を始めているところがある。

また「銭湯」の脱衣所を活用し、介護予防体操や脳トレを行った後、入浴ができる「ふれあい遊湯う」（介護予防事業）が区内6カ所でおこなわれている。

今後も、運動・スポーツにつながる地域資源としての活用について、浴場組合を通じた連携を行うとともに情報発信に力を注いでいきたい。

イ 区民が運動・スポーツに関心をもち、気軽に取り組むためには、その楽しさに「気づく」きっかけとなる機会を充実させ、継続してできる身近な場の提供が重要である。

そのためには、区施設での活動に加え、民間団体、事業者とも連携して、これまで運動・スポーツになじみの薄かった区民にも楽しんで参加できるような機会と場を提供できる取り組みを拡充していく。

ウ 施設や設備の拡充は、スペースの確保が困難であり、すぐに実現ができない場合が多いことから、区内施設を選んで利用したいという理由として、「ソフト面での配慮」が挙げられるよう、利用者目線での施設管理を心掛けていく。また、民間施設でできる競技情報の把握に努めたい。

エ 自治体向けのウォーキングアプリをはじめとする健康に関するポイントを利用した事業については、すでに民間事業者が提供している様々なアプリを利用している方が多くいると想定しており、今のところ、区が費用負担してアプリ導入をする予定はない。

ウォーキングチャレンジのように、参加のモチベーションをあげるプレゼント企画を事業に連動するなどの工夫は、継続して取り組んでいく。

(3) 助言総括3 「スポーツを通じた共生社会の実現」のための取り組み

令和4年3月にスポーツ庁は、「第3期スポーツ基本計画」を提示し、その中で「スポーツを通じた共生社会の実現」を掲げており、東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策となっている。足立区では、オランダとの連携により「パラスポーツで社会を変える」を重要テーマとして取り扱っており、今後も継続的な発展に期待したい。

ア 多様な立場の人がスポーツに参加できる環境整備

共生社会の実現として、障がい者、高齢者、子ども、外国にルーツがある人など誰もが参加できるスポーツ環境を整える必要がある。そのためには、それぞれの立場の方が安心して参加できるよう何に配慮すべきか（例えば、感染症対策が徹底されたイベントや空間も必要）、家族が安心して参加させられるイベントはどうすればよいか、それぞれの事業の企画時には、参加対象者に合わせた運営の工夫をさらに期待する。

イ とともに楽しむコミュニケーションツールとしてのパラスポーツ活用

～障がい者と健常者がともに汗を流せる機会の提供～

障がい者スポーツのスタートや継続は当事者意欲に左右されることはもとより、参加しやすい環境とサポーターのさらなる協力・充実が鍵となる。

オリンピック・パラリンピアン¹の直接指導が受けられる「体験会」の再開やレクボッチャ大会の開催、個人向け障がい者運動教室の開催、学校訪問型パラスポーツ体験事業の実施は大変評価できる。今後は学校教育や学童、放課後子ども教室の中などにも積極的にパラスポーツを取り入れ、誰もが楽しめるコミュニケーションツールとして普及していただきたい。

パラスポーツ体験で覚えた競技を、障がい者とコミュニケーションをとりながら一緒に楽しむことができるようになることが、本当の共生社会の礎をつくるものとなろう。大学連携の試みとして、実際に東京未来大学の学生が障がい者運動教室に参加することで両者ともに楽しむ時間を共有できた。

今後も障がい者や特別支援学校の生徒との交流などの場、障がい者運動教室へのサポート参加などの障がい者と健常者が共に汗を流せる機会を継続してつくれるような検討をお願いしたい。

ウ 合理的配慮や理解、安全に関する知識をもったスポーツ関係者や団体、スポーツボランティアの育成

今後普及が見込まれる部活動指導員をはじめ、地域スポーツの指導者、民間のスポーツの指導者、そしてスポーツ参加者や関係者に対して合理的配慮に関する知識や情報を提供し、スポーツを通じた共生社会を実現するための「支える」人材育成を期待する。その際、ハラスメント防止など、法令遵守を徹底した人材育成が求められる。

また、安全面から、昨今の気候変動を受け、炎天下で行われる事業への熱中症対策などの配慮にも留意できる指導者の育成を期待したい。

エ スポーツを支える人のインセンティブを検討

審判やスポーツボランティアなど、全て善意に頼るのは限界があるため、インセンティブを検討していただきたい。すでに交通費や図書券などの謝礼は支払われていることが多いが、これらのインセンティブでどの程度、支えるスポーツのモチベーションが高まっているか不確かである。スポーツを「支える」ことの魅力を高めるとともに、インセンティブのニーズを把握し、インセンティブの金額や内容の工夫などを検討していただきたい。例えば、交通費に加えて、回数に応じて足立区で使用できる商品券や銭湯無料券などがもらえるといった工夫の余地はあるであろう。

《助言総括3に対する区の考え方》

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、2017年度からスタートした「オランダ連携事業」では、「スポーツを通じた共生社会の実現」の考え方の定着にむけて、様々な取り組みを進めてきた。

これからは、継続してオランダからの学びを深めながら、オリパラレガシーとして注力し、パラスポーツの推進体制を強化していく。そのために「パラスポーツ推進協議会」を設置し、パラスポーツの理解を深め、計画的に実践していく

ア 共生社会の実現には、障がい者のみならず、多様な立場の方が安心してスポーツに参加できる環境整備が必要であると認識している。

施設整備のみならず、イベント実施時の導線や観覧席における配慮などを含め、参加対象者を想定した配慮ある準備、運営に努めていく。

イ 共生社会の実現のためのツールとして、パラスポーツの普及の先には、健常者がパラスポーツを障がい者とコミュニケーションをとりながら一緒に楽しむことが重要であると認識している。

「ボッチャ広場」や「パラスポーツ体験会」など、継続してパラスポーツができる場を確保するとともに、スポーツコンシェルジュのアウトリーチなどの活動を積極的におこなうことで、住区センター等地域において気軽に取り組める機会や、障がい者や特別支援学校の生徒との交流の場を拡充するなど、活動の裾野を広げていく。

ウ 誰もが運動・スポーツに気軽に参加するためには、その活動をささえるための人材確保が重要である。スポーツのルールや競技指導技術だけではなく、合理的配慮や理解、安全に関する知識、法令遵守ができる判断力を持った人材の育成が求められている。

スポーツに関連する団体間の研修情報の共有化を図り、様々な研修に参加しやすくするなど、多様な側面で適切な指導ができる人材育成に取り組んでい

エ 現在、地域における運動・スポーツ活動は、審判やスポーツボランティアなどの人材にささえられている。多くの場合は、それぞれの団体の規定の中でその対価が支払われていたり、大会運営に際しては、スポーツ協会からの補助金などを活用して謝金を支払っている。

そうしたことを考慮すると、地域における運動・スポーツ活動は共助によるものであり、現時点において、一律に公助として何らかのインセンティブを提供することは慎重な検討が必要となる。

(4) 助言総括4 3分野連携の実現に向けて

3分野連携事業は、読書・文化・スポーツの3つの計画の共通理念を「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」とし、分野間連携を強化しながらつながりをもった計画を立てている。各事業や所管が常に3分野連携を意識していくことで、すでにある資源や施策を有機的に発展することが出来ると考え、以下の点を助言したい。

ア スポーツ・運動からのアプローチ

スポーツや運動に興味がある方への読書のきっかけとして、スポーツや運動に特化した書籍をすすめてみることを提案したい。その際、図書館に運動・スポーツの特集コーナーを作るだけでなく、体育館や民間のスポーツジムなどに移動図書館などを設置して運動直後に書籍を手にとれるような工夫ができる。また文化・芸術との連携であれば、ランニングマシーンを使いながら映画鑑賞できたり音楽が聴けたりするサービスなども検討可能であろう。

イ 所管同士の連携について

すでにある事業に運動・スポーツの意味を持たせることを提案したい。例えば、危機管理部の「ながら見守り」は「散歩」という側面がある。すでにあるものを「運動・スポーツ」という側面から意味づけを行うことで、既存の事業を活かすことが出来る。

現在の事業一覧に、まだ網羅されていない事業もあるため、情報を把握し、その事業に参加したことで「運動・スポーツ」に自然と参加できたという区民の意識を高めてほしい。

ウ 大学連携

読書をはじめとする学びの連携で、運動・スポーツに関する足立区内の大学の教員の書籍を紹介したり、スポーツのイベントで学びブースとして研修会などの講座を開設したり、運動、文化、読書（学び）に関する大学の公開講座なども併せて紹介することを提案したい。

《助言総括4に対する区の考え方》

より多くの区民が文化・読書・スポーツの楽しさに気づくことで、豊かに生きることができるよう、3分野連携事業の考え方を意識した事業展開は重要であると認識している。

特に、運動・スポーツを入口としない活動からの気づきやきっかけから、運動・スポーツへの取り組みにつながるような働きかけを継続しておこなっていく。

ア 区スポーツ施設のスレックルームやトレーニング機器設置場所でスペース

が許す所では、小さな本棚を設置し、少しの休憩時間や、トレーニングの合間に本を手にとることができるようにした。

運動・スポーツに係る「文化」や「読書」に触れることで、より自身の活動や考えが深まる側面だけではなく、映像を見ながら、音楽を聴きながら、本を読みながらといった「ながら運動・スポーツ」が、普段、運動・スポーツを取り組むこと自体にハードルが高いと感じている区民にとっては、気軽に組み込むきっかけになる場合もある。

今後も、気軽に組みこめるための工夫の一つとして、三分野連携の考え方を取り入れた事業展開を継続していく。

イ 事業一覧にまだ網羅されていない事業もあるため、今後も庁内の事業情報を把握し、主目的は別であっても、運動・スポーツ活動につながる要素があれば、それを意識してもらえよう、情報発信も含めた庁内連携の工夫に取り組んでいく。

ウ 区内大学における運動・スポーツに関する取り組みを区民が知ること、関心を持つきっかけの一つとなると考える。

区内図書館でおこなう「特集展示」の際に、テーマにあわせた区内大学教員の運動・スポーツに関する研究をまとめた書籍を取り上げたり、スポーツイベントのテーマにそった区内大学の講座を実施することが可能か、今後、検討していく。

また、大学で行われる公開講座情報については、イベント時やスポーツ振興課に設置されているインフォメーションコーナーを活用し、紹介の機会を広げていく。

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-1	子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむためのきっかけづくり
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なる。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細やかな施策・事業を展開する。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	区民のスポーツ実施率							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	-	35.2%	-		(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	-	-	70.4%	-		

指標名②	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	70.7%	86.7%	82.6%	78.3%		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	-	108.4%	103.3%	97.9%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	12	7	1	2	0	4	26
%	46%	27%	4%	8%	0%	15%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R4年度未実施

指標②実績値（82.6%→78.3%）はR3年度を下回り、R7年度の目標値（80.0%）も下回った。

【要因分析】

（1）指標②については、R2・3年度は、コロナ禍によりスポーツイベントが限定的だったため、数少ない機会を発見して参加する方は、必然的に満足度が高くなったと推測される。R4年度は、感染対策が緩和したことによりイベント参加が容易となったが、声出し応援などが実施できなかったこともあり、「楽しさ」という点で、運動・スポーツへの意欲向上が図れなかったと推測される。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

（1）コロナ禍で実施できなかったイベント等の再開

ア イベントや学校における縄跳びチャレンジや持久走の取り組みが、感染対策を講じながら再開された。（例：小学校持久走の取り組み R2:76.9%→R4:100%）。

（2）様々な年代向け事業や障がい者向けイベントなど多様な対象者へのアプローチ

ア 高齢者向け「パークで筋トレ」の会場平均は前年を下回った（R3:35人、R4:33人）。しかしコロナ禍前に比べ倍増した参加者は概ね維持できた（H31:13,533人、R4:26,574人）。

イ 未就学児対象「親子野球教室」は、応募倍率が約2倍となった。ほかの親子体験教室の申込も定員を上回った。保護者が参加するメニューを必ず組み込み、子育て世代の運動機会を増やすきっかけづくりに取り組んだ。

ウ R4年度にスペシャルライフコートフェスティバルや、様々なスポーツ体験や定期的なパラスポーツ体験会を実施し、個人向け運動教室やポッチャ広場といった定期的な活動機会に繋がった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

（1）コロナ禍で新たに身近な場で、「一人でも」運動を始めた方の活動の定着を図るため、様々な年代や対象者に向け、参加しやすい企画の工夫を継続していく。

（2）「健康」や「仲間づくり」といった運動やスポーツから得られるものをPRしていくことで、運動やスポーツを継続していくモチベーションを高め、身近な場所で取り組める事業に誘導していく。

【中長期の取り組み】

（1）引き続き、どの年代でも身近で気軽に参加できる事業を実施し、参加時に「アドバイス」をするなど次の参加や習慣化につながる工夫を行っていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

（1）様々な年代に対するイベントを企画した。気軽に参加できる「個人参加型」の事業や、じっくりと指導を受けられる「体験型」事業の充実に継続して取り組んだ。

（2）障がい者の運動・スポーツについて、「スペシャルライフコートフェスティバル」で運動・スポーツの楽しさを伝え、継続して取り組みたい方を「個人向け障がい者運動教室」につなぐなど、きっかけを行動につなげられる仕組みを工夫した。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	3	3	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合が、前年度より下がったことは残念である。より工夫をした事業展開に期待する。 イ 親子体験型の事業で、子どもだけにアプローチするのではなく、運動実施率の低い親世代にも参加の機会を作る工夫は評価できる。 ウ 障がい者の運動・スポーツの機会の拡大のための新規事業の展開は評価できる。 エ 高齢者実態調査によると「コロナ禍で体力や筋力が落ちた」と感じている方が7割いる。介護予防事業のメニューの充実と新規参加者の増につながる対応を期待する。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 運動・スポーツの習慣化のために、参加者のモチベーションをたもつために、運動・スポーツ以外のアプローチや、仲間づくりや健康といった別のキーワードを発信するという方向性は、評価できる。 イ パークで筋トレ参加者に健康づくり関連事業のチラシを配付するなどして、ほかの事業にも継続的な参加につながるよう工夫してほしい。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア コロナ禍で不特定多数の参加イベントが困難な中、「個人参加型」や「体験型」事業を継続したことは評価できる。 イ 障がい者の運動・スポーツについて、体験から継続した運動につなぐ取り組みに着手したことは評価できる。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 成果指標、活動指標ともに、感染対策の緩和により活動が活発になってきているため、R7年度の目標に近づいていけると思われる。 イ 制限期間中に体力がおちたり外での活動が難しくなった高齢者や障がい者（特に身体）もあり、安心して参加できる感染症対策を継続することで、家族を含む不安を軽減してほしい。 ウ 成果指標②がR3年度を下回ったことや、活動指標となる親子野球教室の参加率の減少や、縄跳びチャレンジが100%の参加とならなかったことは残念である。原因を分析し、開催の工夫などを議論することで、目標達成することを期待する。 エ 成果指標②はイベント参加者の意見であるが、参加できない（していない）方のニーズも探ってイベントを検討する必要がある。 オ ウォーキング教室やフレイル予防教室など介護予防事業の参加者が多く、65歳以上の高齢層へのアプローチは成功しており評価できる。一方、運動・スポーツの参加実績が一番低い働き盛り世代、子育て世代の30～40歳代向けの事業が少ないように感じる。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 様々な年代や対象者にむけ、参加しやすい企画の工夫をしていく方向性は評価できる。そのためには年代別の課題把握が必要である。年代別データを収集分析し、それを活かす施策に取り組んでほしい。 イ 参加時に「アドバイス」をするなどの習慣化の工夫をしていく方向性は評価できる。例えば、トレーニングでは、理学療法士、アスレチックトレーナー等の専門家の意見や助言を頂ける機会など、大学や民間事業者との連携があると参加のモチベーションが高まるのではと考える。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア 高齢者向けの事業ではすべての事業で前年を上回る結果となっており、高齢者の健康維持に貢献していると感じる。 イ 外国籍の方々への情報提供や参加の促し、言語対応などにはまだ課題があると感じる。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への助言に対する区の考え方 【ウについて（成果指標①②）】 子どもたちの運動・スポーツの体験機会を確保するために、募集型のイベントでは当日キャンセルを想定した対応をするなど、より多くの方が参加できるような工夫を続けていく。 【エ・オについて（成果指標①②）】 令和3年に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」によると運動・スポーツを実施しない理由は、「コロナの影響」（37.2%）「歳を「とった」（17.8%）「面倒くさい」（15.9%）となっている。年齢に応じた、身近な体験講座の充実や周知に努めていく。 (2) 「今後の方向性」へのに対する区の考え方 【ア・イについて（成果指標①）】 年代別の運動実施率をもとに、実施率の低い30代～50代の働き世代に対し、身近で気軽に取り組める事業や、子どもと一緒に参加できるスポーツイベントを企画するなど、年代層に合わせた事業展開を図る。また、専門性を活かした連携を意識して、イベント参加時の情報提供に取り組む。 (3) 「評価の反映状況」へのに対する区の考え方 【イについて（成果指標①）】 外国籍の方々への情報提供や参加の促し、言語対応については、区ホームページでは多言語対応が可能となっているため、チラシやポスターのQRコードの掲載にあわせ、見やすくわかりやすい表現でホームページづくりを心がけたい。				

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-2	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。

区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツを観戦した区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去1年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	65.9%	実績値	65.9%	-	42.1%	-		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	-	-	52.6%	-		

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	-	35.2%	-		(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	-	-	70.4%	-		

指標名③	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	86.7%	82.6%	78.3%		(80.0%)
目標値（R7）	80.0%	達成率	-	108.4%	103.3%	97.9%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	1	0	1	0	5	10
%	30%	10%	0%	10%	0%	50%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

- 【達成状況】
- 指標①・②実績値 R4年度未実施
指標②、③は再掲（施策1-1）
- 【要因分析】
- (1) 指標③については、R2・3年度は、コロナ禍によりスポーツイベントが限定的だったため、数少ない機会を発見して参加する方は、必然的に満足度が高くなったと推測される。R4年度は、感染対策が緩和したことでイベント参加が容易となったが、声出し応援などが実施できなかったこともあり、「楽しさ」という点で、運動・スポーツへの意欲向上が図れなかったと推測される。
- 【新しい生活様式への対応やその他実績等】
- (1) アスリート事業の再開
- ア オリンピアン、パラリンピアンに直接指導を受けられる「体験会」を再開し、好評であった。パラリンピアンによるパラトライアスロンで使った「ハンドバイク体験」、オリンピックの「走り方教室」、車椅子バスケット日本代表の「車いすバスケット体験」など、貴重な体験の機会となった。
- (2) 民間事業者との連携協定に基づくプロサッカーリーグの区民無料・優待招待事業
- ア 令和4年3月に「区民の運動・スポーツに関する連携協定」を東京ヴェルディ（男子プロサッカー）と締結し、同年10月にWE（女子プロサッカー）リーグ、令和5年3月にJ2（男子プロサッカー）リーグの区民観戦デーを実施し、区民の「みる」スポーツの機会の拡大に取り組んだ。
- (3) 障がい者が参加しやすいスポーツ事業の拡大
- ア 誰もが参加できるスポーツとして、レクボッチャ大会を実施。障がいの有無、年齢に関わらず、多くの参加者が楽しんだ。また、個人向けの障がい者運動教室を新たに実施した（年10回）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

- 【短期の取り組み】
- (1) イベント参加者に対し、スポーツの楽しさを伝えていくとともに、「みる」スポーツの機会の充実を図ることで、スポーツへの無関心層へのアプローチを広げていく。
- (2) 令和5年度はサッカーU20、バスケット、ラグビーのワールドカップが実施される。スポーツへの注目が集まる好機を捉え「体験会」などの情報発信のタイミングを工夫し、スポーツへの関心を高めていく。
- 【中長期の取り組み】
- (1) 「体験会」には、試合観戦やデモンストレーションを組み込むなど「する」「みる」を体感できる事業を充実することでスポーツを楽しめる機会を充実させていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

- (1) 「みる」スポーツの充実のために、民間事業者との連携協定によるプロリーグの試合観戦の機会を増やす取り組みに着手した。
- (2) 障がい者の参加しやすい運動・スポーツ事業の充実を図った。「障がい者運動教室」は個人向けにも拡大し、様々な運動体験を提供するだけでなく、令和5年3月には味の素スタジアムへ出向き、そこでの運動体験やサッカーの試合観戦をおこなった。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	3	3	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア コロナの感染対策が緩み、制限されていた運動・スポーツの機会を取り戻したいと考えた区民に対し、区が行うイベントだけではなく、民間事業者との連携でプロの試合観戦機会をつくることができたことは評価できる。 イ オリンピックや、パラリンピック、世界大会出場経験者などアスリートとの交流やその技を体感できる機会を活用し、イベントを実施したことは、より区民の運動・スポーツの意欲を高めることができたことと推察される。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 運動・スポーツへの関心を高める手段として、世界的な大会をきっかけに競技を「みて」知る取り組みを行なおうとする点は評価できる。 イ 『誰もが参加できるスポーツ』としてポッチャに組み込み、障がい者の運動・スポーツの機会の拡充だけではなく、多様なコミュニケーションの一環としてスポーツを活用している点も評価できる。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア 民間事業者との連携から様々な活動や「みる」スポーツの充実が図られたことは評価できる。継続した取り組みとすることで、より多くの区民がプロスポーツの機会に触れ、「やってみよう」という意欲の向上につながることを期待する。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 東京ヴェルディ（民間）との締結により、イベント参加の拡大、ジュニア期の障がい者スポーツの機会保障、プロの試合観戦機会の確保が可能となり、スポーツのすそ野が広がっている様子が伺え評価できる。 イ 体験会の再開が好評であったことは、今後の取り組みの一つのモデルとなるであろう。区に縁のあるプロスポーツ選手やスポーツチーム・事業者の活躍等を積極的に情報発信してほしい。 ウ パラスポーツ体験会の実績は目標値の半数以下となっているが、冬場の開催が参加のハードルを上げている可能性があり、開催時期の見直しを検討してほしい。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 世界的なスポーツイベントの開催を好機ととらえ、区民のスポーツの関心を高めようとする点は評価できる。 イ 「みる」スポーツの機会拡大として、区民の甲子園や高校サッカーなどの学生スポーツ競技にフューチャーすることは、興味関心を高める一つの方法と考える。 ウ 「みる」スポーツの充実のため、区イベントでは、基本的なルールが理解できる観戦用のリーフレットやパンフレット作成の継続に加え、動画によるPRがあるとより理解が進むであろう。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア 障がい者と健常者が一緒に参加できるイベントの開催は障がい者の運動・スポーツの理解へも繋がり評価できる。 イ パブリックビューイングなど区民が一体となってスポーツイベントを観戦できる場の設置なども検討して頂きたい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への助言に対する区の考え方 【ウについて（成果指標①②③）】 パラスポーツ体験会については、改めて周知方法、体験内容を見直して実施し、結果を踏まえて改善していく。 (2) 「今後の方向性」への助言に対する区の考え方 【イについて（成果指標①）】 学生スポーツ競技に限らず、足立区在住・出身選手が活躍する情報をSNSなどを活用し区民向けに積極的に発信し、スポーツへの興味、関心を高めるきっかけづくりに取り組んでいく。 【ウについて（成果指標①）】 区のイベント時に観戦用リーフレットの作成の継続にあわせ、総合スポーツセンターに設置されたデジタルサイネージを活用した動画や映像を使った大会周知や競技紹介など、観戦への期待を高める工夫をおこなっていく。 (3) 「評価の反映状況」への助言に対する区の考え方 【イについて（成果指標①）】 令和6年度は、パリ五輪・パラリンピックの実施年となる。区の縁ある選手を皆で応援するパブリックビューイングなどで観戦できる機会を増やせるよう検討していく。				

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	2-1	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課		地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができ環境づくりに取り組んでいく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合							
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規実績値	新規	72.2%	75.2%	69.0%			(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	-	144.4%	150.4%	138.0%		

指標名②								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	実績値							
目標値（R7）	達成率							

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	実績値							
目標値（R7）	達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	1	6
%	83%	0%	0%	0%	0%	17%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（75.2%→69.0%）はR3年度を下回ったが、R7年度の目標（50.0%）を上回った。

【要因分析】

(1) コロナ禍の影響で、自宅でのリモート業務などが増加していたR2・3年度には、自宅周辺での活動に増加傾向がみられたが、令和3年度と比べ自宅や職場周辺で取り組む人は、6.2ポイント減少した。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) スポーツ施設運営、学校開放事業の中止のない実施

ア 令和4年度は3年ぶりに新型コロナウイルス感染拡大防止のための施設、学校開放事業の中止が一度もない年となった。感染対策のために人数制限等は継続したが、学校開放事業等により身近なところで運動・スポーツを行える場の提供を実施できた。

(2) パラスポーツイベントの増

ア 定期的に実施する「パラスポーツ体験教室」「ボッチャひろば」「障がい者運動教室」が定着し、障がい者も含めたパラスポーツの体験の場が拡充された。

(3) 年代に応じた身近な場所における運動・スポーツ事業の実施

ア **パークで筋トレ**については、令和6年度までに40箇所の会場開設を目指している。**令和4年度には2か所開設され36か所**となった。多くの地域に開設されたことで、多くの方が身近で気軽に参加できる場が確保された。

イ 区スポーツ施設での「スポーツ広場」の実施など、身近なところでできる運動・スポーツのきっかけとなる場を提供した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 誰もが気軽に取り組み、運動の習慣化につながるウォーキングやパークで筋トレといった身近な場所を活用した事業を質の向上を含め充実していく。

(2) 誰でも安全に利用できる施設運営や事業実施に取り組んでいく。そのための施設管理者や指導者の安全管理意識を高めていく。

【中長期の取り組み】

(1) 区スポーツ施設の整備・維持とともに、民間スポーツ事業者との連携を含め、より運動・スポーツを身近に楽しめる場の新たな提供や事業展開に取り組んでいく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) **令和5年度に大谷田地域（予定）にボールが使える公園を開設する見込みとなった。**

(2) 安心して身近な場所での活動ができるよう、**パークで筋トレの指導員講習会を実施した。**

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	4	3	4
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 一度活動から離れてしまった区民や、興味や関心が持てない区民に対する「きっかけ」づくりのための「体験の場」が多く展開されたことは評価できる。 イ コロナ禍では、運動・スポーツの場も限られていた半面、仕事の取組み方も変わっていて、自宅で過ごす時間が多かった。活動の制限が緩和されたことにより、自宅やその周辺で運動していた時間がもたに戻ってしまった可能性がある。短時間でも簡単に取り組める運動・スポーツが習慣化するような事業展開の工夫に期待する。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 身近な場所で気軽に参加できる運動・スポーツ活動事業を活動内容も含め充実させていく方向性は評価できる。 イ 民間活用も含めた新たな事業展開をさらに検討を深めてほしい。 ウ パークで筋トレの指導者の質の向上に取り組んでみてはどうか。検討してほしい。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア 周辺住民等の理解を得て、ボールが使える公園が開設できる見込みとなったことは評価できる。 イ パークで筋トレは、公園活用の代表的な活動となった。今後も多くの高齢者の参加のため、指導内容を充実させる対応は評価できる。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和５年８月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 身近な場所で運動・スポーツを行っている方の割合が前年より6ポイントほど下回っているが、目標の50%は毎年上回っているため、引き続き70%前後の水準維持を期待する。 イ 気軽に参加できる事業が多く展開されていることで約7割の方が身近な場所で運動・スポーツができていることは評価できる。 ウ パラスポーツのイベントは増加しており、評価できる。パークで筋トレへの参加者、ウォーキングやランニング実施者もよく見かけられるようになり、区民の健康への意識の高まりが実感できる。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 身近な場所を活用した事業について、質の向上を含めた充実に取り組む点は評価できる。 イ 民間事業者との連携を強化する方向性は評価できる。場の提供、指導者の質の向上にも専門的な対応ができる民間事業者が大きなちからとなる。もっと活用できる工夫に注力してほしい。 ウ 身近なところで実際に活動するパラスポーツの選手の試合やトレーニングの様子を区内で見られる機会（練習試合や公開練習など）を設定することで、身近な場所でもここまでできることを実感できると思われる。区内施設の活用、イベント企画に取り入れてほしい。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア ボールが使える公園が令和5年に設置予定となったことは評価できるが、このペースで目標の令和7年に4つのエリア全てに設置できるのかが疑問である。 イ パークで筋トレのように定期的な活動が、区民の身近な運動・スポーツ活動を支えている。天候などで途切れることがないよう回数を増やすなどの工夫ができないか検討して頂きたい。				

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）
(1) 「現在の達成状況」への助言に対する区の考え方 【ア・イ・ウについて（成果指標①）】 誰もが運動・スポーツを身近な存在であると感じることができるよう「きっかけづくり」となる取り組みを継続し、身近な場所で取り組める区民の活動のために、安全な施設運営や事業実施に取り組んでいく。 (2) 「今後の方向性」への助言に対する区の考え方 【ウについて（成果指標①）】 スペシャルライフコートを活用した障がい者団体の活動やパラスポーツイベントにおいて、パラスポーツ選手の活動を身近に目にできる機会づくりに取り組んでいく。また、パラスポーツ選手に限らず、プロスポーツ選手やチームのデモンストレーションや試合観戦の機会を拡充し、身近な場所で運動・スポーツに触れる場の新たな提供や事業展開に取り組む。 (3) 「評価の反映状況」への助言に対する区の考え方 【アについて（成果指標①）】 令和5年度までに、ボールが使える公園を未設置の4エリアのうち3エリアに設置完了した。残りの花畑エリアの整備は、東京都の毛長川の護岸工事に合わせて行っている毛長公園の整備を優先して進めているため、令和7年度までに整備はできないが、順次整備予定である。ボール遊びができる公園以外でも、身近に運動・スポーツができる公園を増やしていくため、中間見直し時に指標の変更を行う。

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	2-2	協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり
担当部・課		地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

運動・スポーツだけでなく文化活動や体験・学習を行うことができる複合施設であるという地域学習センターが区内に13館あるという強みを生かし、文化・読書分野と連携し、運動・スポーツへの関心喚起、活動の実施につながる様々な取り組みを推進していく。

また、庁内の他部署、民間団体や事業所など、運動・スポーツ分野だけでなく、他分野との連携を積極的に推進していく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	-	69.9%	-		(85.0%)
目標値（R7）	85.0%	達成率	-	-	82.2%	-		

指標名②	3分野連携事業への参加により、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合							
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないがスポーツをしています。」以上を選んだ区民の割合 ※行動変容ステージモデル…「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」で構成							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	44.6%	55.1%	42.6%		(50.0%)
目標値（R7）	50.0%	達成率	-	89.2%	110.2%	85.2%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	1	1	0	0	0	3
%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R4年度未実施

指標②実績値（55.1%→42.6%）は、R3年度を下回り、R7年度の目標値（50.0%）も下回った。

【要因分析】

(1) 指標②については、興味関心をもった区民への働きかけが継続的な参加までつながらなかったことが要因と考える。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 地域学習センターを中心とした3分野連携事業の実施

ア 「ちょいスポ」事業のメニューが増加し、スポーツに興味のなかった方が自然に運動やスポーツを受け入れて取り組む結果につながった。特に運動実施率の低い、子育て世代へのアプローチは、日常生活サイクルの中で子どもと一緒に気軽に参加できる活動として、スポーツのきっかけになっている。

(2) 民間事業者や他所属との連携事業の中での他分野連携

ア 東京ヴェルディ(株)連携事業の一つとして、令和5年3月に味の素スタジアムでJ2（男子プロサッカー）リーグ「足立区民観戦デー」が実施され、区内和太鼓団体にエントランスにおける演奏を披露してもらった。スポーツ観戦にきた区民が、会場で他分野で活動する団体の活動を目にし、演者もスポーツ観戦を通じた交流をすることで、スポーツや文化の楽しさを相互に感じる機会となった。

イ ウォーキングチャレンジを衛生部の糖尿病月間キャンペーンと同時期に実施。「食」と「運動」で健康を意識するよう、双方のチラシにお互いの情報を掲載するなどした。また、観光交流協会との協力でONE DAYウォーキング用の見どころマップを作成した。

ウ パークで筋トレ会場で、参加者向けに「栄養」「防犯」などのチラシ配布とミニ講座をおこなった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 運動・スポーツを入り口としないアプローチから、自然に運動・スポーツに取り組める「ちょいスポ」の考え方を生かし、事業構成や情報発信の工夫に取り組む。

(2) スポーツを通じた共生社会の実現のためにパラスポーツを推進する。そのために福祉部、教育委員会などの関係部署との連携、パラスポーツに関する協働・協創パートナーとのつながりを広げる。

【中長期の取り組み】

(1) 民間事業者との連携により、民間事業者が持つ施設やノウハウ、スタッフなどの活用についても積極的に取り組み、区民ニーズに広く応えていく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) ウォーキング教室のコースに「橋を見る」「銭湯を訪ねる」といったテーマのコースを設定し、好評を得た。好評だったコースは、マップを作成し、ホームページの「ウォーキングマップ」に追加掲載をおこなうよう対応している（R4コースは作成中）。

(2) 民間スポーツ事業者の施設の休館日を借り上げ活用する事業について、令和5年度の予算に反映し、実施予定となった（民間プール活用事業）。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	4	4	3
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 地域学習センターにおける「ちょいスポ」の取組みは、運動実施率の低い世代に有効な取組みであり、今後の展開に期待する。 イ サッカー試合会場で文化団体の活動披露の場を生み出し、スポーツや文化の楽しさを相互に認識する機会としたことは評価できる。今後も、スポーツイベントの場に、ほかの分野の活動を取り入れることで、相互理解や新しい気づきが生まれることを期待する。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア スポーツ分野だけではなく他の分野の情報や視点を加えることで、より多くの区民が興味をもって事業参加ができるようにした工夫は評価できる。 イ スポーツを通じた共生社会の実現に、関係する所管課が連携し、事業展開をすることは評価できる。 ウ ウォーキング事業とパークで筋トレ事業の連携等、更なる工夫で参加者に運動の楽しさを広く伝え新たな活動につなげてほしい。 (3) 「評価の反映状況」への評価 ア 民間施設の活用事業といった新たな取り組みをおこない、区民の運動・スポーツの機会を拡充するだけでなく、民間事業者の持つノウハウやスタッフを活用することで、他の事業への展開が期待される。実施結果を分析し、今後につなげてほしい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和5年8月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア 3分野連携の協創推進事業参加者が倍増していることは評価できる。一方で、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合が目標値に届いておらず、前年値を下回る結果となっていることは3分野連携事業の成果指標として問題であり、今後は参加に繋がるような取り組みやスポーツ観戦を促すなどの工夫でスポーツ参加意欲の向上に期待する。 (2) 「今後の方向性」への助言 ア 区内事業者との協働や連携の方法として、場の提供だけではなく、人材の発掘、育成を推進することも視野に入れ、事業を広げてほしい。 イ 連携先として、民間事業者だけではなく、区内にある都施設（東京武道館、舎人公園陸上競技場、東綾瀬公園）との連携、情報交換による相乗効果を狙った取り組みも検討してほしい。 (3) 「評価の反映状況」への助言 ア ウォーキング教室のテーマ設定など、好評だった事業をより強化し展開していることは評価できる。 イ 民間スポーツ事業者の施設借り上げについて令和5年に実施されることになり評価できる。夏場のプールだけではなく、ジムやスタジオの借り上げ等も含めたさらなる展開を期待したい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和6年2月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への助言に対する区の考え方 【アについて（成果指標①②）】 「ちょいスポ」の考え方を活かした事業構成や「みるスポーツ」の拡充に取り組むことで、気軽に運動・スポーツを始めるきっかけづくりに取り組んでいく。 また、普段の生活の中で積極的に身体を動かすことや散歩なども含まれることを、運動・スポーツで生まれる価値や効果を言語化・見える化する工夫と合わせて発信していくことで、今まで取り組めなかった区民への運動・スポーツへのハードルを下げるよう努めていく。 (2) 「今後の方向性」への助言に対する区の考え方 【ア・イについて（成果指標①②）】 「運動・スポーツの楽しさを深める場の提供」という施策の柱を達成するために、すでに運動・スポーツに取り組んでいる方が、「もっとやってみたい」といった「意欲」を深めていくことが、自主的、継続的に取り組めるポイントと考える。そのためには、施設のハード面の整備だけではなく、ささえる人材の発掘、民間事業者や都施設などとの連携により、多くの場の提供を図っていききたい。 (3) 「評価の反映状況」への助言に対する区の考え方 【イについて（成果指標①②）】 民間スポーツ施設の借り上げについては、区施設の活用とコストなどの状況を鑑みながら、多くの区民に場の提供を行える一つの手段として、今後も慎重に検討していく。				

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和4年度実施事業分）

施策の柱	3	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	3-2	運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング
担当部・課		地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいく。
また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングする仕組みを整えていく。

2 成果指標

※R7は目標値

指標名①	運動・スポーツをささえる活動を行った区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、過去1年間に運動・スポーツをささえる活動をしたことが「ある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	16.8%	実績値	16.8%	-	11.4%	-		(35.0%)
目標値（R7）	35.0%	達成率	-	-	32.6%	-		

指標名②	スポーツボランティアの地域イベントへの協力人数							
指標の定義	運動・スポーツをささえる活動に従事した「公認スポーツボランティア」「障がい者スポーツボランティア」などの延べ従事人数							
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）	新規	実績値	新規	0人	297人	479人		(820人)
目標値（R7）	820人	達成率	-	0.0%	36.2%	58.4%		

指標名③								
指標の定義								
		H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
現状値（H30）		実績値						
目標値（R7）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	2	0	0	0	0	5
%	60%	40%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R4年度未実施

指標②実績値（297人→479人）はR3年度を上回ったが、R7年度の目標値（820人）を下回った。

【要因分析】

(1) 指標②はR4年度、コロナ対策緩和により参加可能なイベントが増加したことに伴い、活動をささえる人数も増加し、昨年度を上回った（例。パラスポーツ体験会、レクボッチャ大会、ボッチャ広場等）。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

(1) 障がい者福祉サービス事業者や特別支援学校へのアウトリーチ

ア あだちスポーツコンシェルジュがパイプ役となり、区内事業者等へのアウトリーチ（出前事業）に初級障がい者スポーツ講習会受講者を5回11人派遣した（特別支援学校、障がい者施設）。

(2) 定期的なパラスポーツ体験会への協力

イ 総合スポーツセンターが自主事業として行う「スペシャルライフコートパラスポーツ体験会」にスポーツ推進委員が従事することに加え（年24回）、「ボッチャ広場」の運営を初級障がい者スポーツ講習会終了者で開始した（年10回）。定期的にパラスポーツ体験指導や障がい者のサポートをすることで、ささる人材の活躍の場を広げ、スキルアップにつなげている。

(3) 指導者のための研修の充実

ア 体育協会やスポーツ推進委員に対する研修等については、様々な運動・スポーツ指導に携わる個人や団体にも情報を展開し、希望者が受講できるように工夫した。

令和4年度は、熱中症対策アドバイザー、コンプライアンス研修、オランダ連携事業の講演会を実施。競技力向上以上に必要なスキルとして、安全や配慮ある指導、共生社会への理解に役立てた。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) ささえる人材の活動の場を拡充し、パラスポーツをはじめとする誰もが取り組める運動・スポーツの普及に取り組む。

(2) スポーツイベントの受付のような対人的なスキルや、指導補助などこれまでの経験を生かす様々な活動の場を創出することで、より多くの人材の参加とスキルアップを図っていく。

【中長期の取り組み】

(1) 組織の垣根を超えた連携と、安全に配慮できる専門的な指導者育成と活躍の場を検討する。また、指導者の安全に対する意識向上のための研修を実施し、団体相互で情報を共有化していく。

＜評価の反映状況＞評価の反映有無、その理由

(1) あだちスポーツコンシェルジュが核となり、障がい者だけではなく、健常者グループへのパラスポーツのアウトリーチを実現させた。

(2) 体育協会が主催する研修に、スポーツ推進委員、総合型地域クラブの指導員、パークで筋トレの指導員などに声掛けをし、ともに学ぶことができた。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	3	3	3	3
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 「ポッチャ広場」のような、支える人材が定期的な活動の場を新たに開始したことは評価できる。 イ 支える人材に対し、より多くの研修や講習会に参加してもらえるよう工夫し、スキルアップに努めていることは評価できる。 ウ 任意の参加となる研修と必須のものを切り分け、より安全に運動・スポーツの指導や、障がい者のスポーツをささえるためのスキルを身につけられる仕組みを工夫してほしい。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 経験を活かした活動とイベント受付など経験がなくてもできる活動の場を確保し、様々な関わり方でより多くの方に参加してもらおうとする工夫は評価できる。 イ 指導者育成について、「安全」の視点で取り組みを開始したことは評価できる。競技技術以外の安全管理などのスキルをどのように判断するか、育成制度の再構築に期待する。				
(3) 「評価の反映状況」への評価 ア ささえる人材の活動の場を定期的につくり、スキルアップに取り組む姿勢は評価できる。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による助言（令和５年８月記載）	—	—	—	—
(1) 「現在の達成状況」への助言 ア スポーツボランティアの活動延人数はR3年と比較し増えてはいるが、イベント数が増加したことによる増加となる。登録者人数がR3年、R4年とも126名と横這いなので、今後目標の170名に向けた活動を期待する。 イ 指導者向けの研修の場が充実しており、希望者が受講できるように工夫していることは評価できる。 ウ 放課後+oneの参加校が目標の67校に対し、50%にも達していないので、達成は難しいように思える。感染対策も緩和されたので、巻き返せるよう普及活動に注力してほしい。				
(2) 「今後の方向性」への助言 ア イベント受付業務など、未経験者でも参加しやすい活動の場の提供は評価できる。 イ 都や近隣の自治体との情報の共有が必要である。区にはない施設やイベント、クラブチームなどを紹介し、区外での経験をつむことで、区内のスポーツをささえる人材育成につなげてほしい。 ウ 「ささえる」ことを継続的に行うためには、有償ボランティアとして活動する際の待遇面の改善や保証を期待する。 エ 元気な高齢者が増えているので、その方たちのボランティア活動の推進を図ってはどうか。				
(3) 「評価の反映状況」への助言 ア スポーツの区民ニーズがつかめるため、アウトリーチは積極的に継続して欲しい。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「５ 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和６年２月記載）				
(1) 「現在の達成状況」への助言に対する区の考え方 [ウについて（成果指標①②）] 「放課後+ONE」については、見守りスタッフのもとで児童が自主的に運動・スポーツを楽しむことが目的のため、遊具の紹介や他校の遊び方の情報提供を行うことで運動プログラム実施校の普及に努め、ささえる人材の活躍の場を広げていく。				
(2) 「今後の方向性」への助言に対する区の考え方 [イについて（成果指標①②）] 都や都障がい者スポーツ協会のボランティア情報のサイトや東京都のスポーツイベントのまとめサイトなどの紹介など、広く情報提供をおこなうことで区外での経験を促していく。 [ウについて（成果指標①②）] 地域における運動・スポーツ活動の多くの場合は、それぞれの団体の規定の中で支える活動に対する対価が払われており、その活動は共助によるものであり、一律に待遇面の改善や保証をすることについては慎重な検討が必要となる。				
(3) 「評価の反映状況」への助言に対する区の考え方 [アについて（成果指標①②）] 今後もアウトリーチ活動を積極的に継続し、区民ニーズを掴んで活動をしていく。				